

目次

N I E実践報告書	いちき串木野市立荒川小学校	2
N I E実践報告書	鹿児島市立向陽小学校	6
N I E実践報告書	志布志市立志布志小学校	10
N I E実践報告書	南さつま市立川畑小学校	14
N I E実践報告書	薩摩川内市立城上小学校	18
N I E実践報告書	肝付町立宮富小学校	22
N I E実践報告書	奄美市立朝日中学校	26
N I E実践報告書	鹿児島市立鴨池中学校	30
N I E実践報告書	鹿児島市立郡山中学校	34
N I E実践報告書	霧島市立牧之原中学校	38
N I E実践報告書	鹿児島県立錦江湾高等学校	42
N I E実践報告書	鹿児島県立大島高等学校	46
N I E実践報告書	鹿児島県立鹿児島聾学校	48
鹿児島県N I E推進協議会会則		52

令和6年度 N I E実践報告（実践4年目）

いちき串木野市立荒川小学校

1 はじめに

本校は、いちき串木野市北西部に位置し、3学級全校児童9名の小規模校である。令和3年度より続けてきた国語科研究「自分の考えを適切に表現できる子どもの育成」を継続して進める中で、新聞を学習に活用することが学力向上に有効であると考え、N I Eの取組を行っている。N I Eの取組も今年度で4年目となった。実践4年目の今年度は、小規模校という本校の実態を踏まえて、これまでの取組に加えて、投稿欄に寄せられた意見文を積極的に活用し同年代の多様な考えに触れさせる機会とした。

2 本校N I E教育の目標

【新聞を読むことに慣れ親しみ、「書く」活動に活かす】

- 低学年 ○ 新聞の写真や文字に興味をもち、新聞に親しむことができる。
- 中学年 ○ 新聞に対する興味関心を高め、新聞に親しむことができる。
 - 新聞記事を読み、思いや考えを簡単な文章に書くことができる。
- 高学年 ○ 興味関心のある記事を選択し、記事に対する思いや考えを書くことができる。
 - 新聞の書き方を知り、各教科の学習内容を新聞形式にまとめることができる。

3 具体的な実践内容

- (1) N I Eタイム（チャレンジタイム）の実施
- (2) N I Eコーナー、新聞コーナーの設置
- (3) 各教科での新聞づくり
- (4) 南日本新聞『若い目』への一人一投稿
- (5) 日常の会話の中でも新聞を

4 取組の実際

(1) N I Eタイム（チャレンジタイム）の実施

毎月1回、土曜授業のチャレンジタイム（8：25～8：40）の時間をN I Eタイムとして設定し、全学年で新聞を活用した活動に取り組んだ。

○ 低学年

- ① 新聞記事からのことば・カタカナ・漢字探しゲーム
- ② 子ども新聞を自由に読み、興味をもった写真や記事について発表する。また、選んだ理由についても自分の考えを発表できるようにした。
- ③ 「若い目」コーナーから、他校の同学年の友達の投稿文を探して読み、自分なりの感想を記入する取組を行った。



○ 中学年

- ① 新聞の読み方について知る。
- ② 南日本新聞社等の HP に掲載されているワークシートを活用し、掲載されている記事の内容を読み取る力を高める活動を行った。
- ③ 南日本新聞「オセモコ」の「五・七・Go!」を活用した。お気に入りの一句を決めて視写する。さらに自分もまねて作る活動を行った。
- ④ 投稿欄に寄せられた同年代の児童の書いた意見文や興味のある記事を選び、自分の感想や意見を書く活動を行った。



○ 高学年

- ① 新聞の読み方・書き方について知る。
- ② 南日本新聞社等の HP に掲載されているワークシートを活用し、記事の内容を読み取る力を高める活動を行った。
- ③ 記事を読み触れることで、新聞に書かれている内容を把握し、見出しの付け方等の新聞の書き方について学ぶ活動を行った。
- ④ 興味を持った記事や投稿欄に寄せられた同年代の意見文を読み、自分の意見や感想を書く。共感したり多様な考えに触れたりする活動、意見文の書き方を知る活動となった。



(2) N I Eコーナー、新聞コーナーの設置

【N I E コーナー】

階段の踊り場掲示板を利用し、N I E コーナーを設置している。児童が興味を持つような記事を意図的に選んで掲示している。



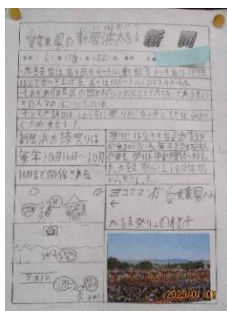
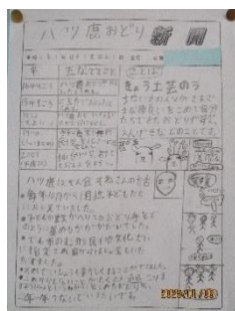
【新聞コーナー】

各教室や図書室に新聞コーナーを設置し、日常的に新聞を手にとって閲覧できる環境を作っている。



(3) 各教科での新聞づくり

N I Eタイムで身につけた新聞の読み方・書き方を生かし、国語や社会の学習などを中心に新聞形式にまとめる活動を行った。学年が上がるにつれて、伝えたいことの要約や見出しのつけ方等ができるようになってきた。



(4年生の作品)
社会科の授業後の
まとめ

(4) 南日本新聞『若い目』への一人一投稿

国語の授業の中でつくった詩や日常の日記、行事後の感想等をもとに一人一投稿を目指した。新聞に掲載されることが児童の書くことへの意欲向上につながっていった。しかし、なかなか一人一投稿はできなかった。



(5) 日常の会話の中でも新聞を

朝の会や授業の中で、季節や年中行事に関する記事、本市に関する記事、授業内容に関連する記事等、教師の方から積極的に提示し話題に挙げるように心がけている。中学年でも児童の方から新聞を手にとり興味を持った記事を見つけ、新聞記事について話をする機会が増えてきた。

5 成果と課題

【成果】

- 新聞を定期購読している家庭も少なく日常的に新聞にふれる機会が少ない環境であるが、新聞を手にとり読む時間や目に触れる場所に掲示することで、少しずつ新聞に興味を持つようになった。
- 低学年には、写真やイラスト、言葉探しなどゲーム的要素を盛り込みながら、新聞に興味を持たせることができた。また、教師が内容を読み聞かせることで記事に興味をもつ児童もいた。
- 児童数の少ない小規模校では、多様な考えに触れる機会が少ないが、投稿欄の「若い目」や「五・七・Go!」等を活用する学習は、同年代の意見や思いを知るよい機会だった。共感したり新しい考えに触れたりし、そこから自分の考えをもつことにつながっていた。
- そのままでは内容が難しい記事もあるが、「子ども新聞」の活用が新聞に親しむきっかけになった児童もいた。また、地方紙版の活用では身近な地域ならではのニュースを知ることができ、興味を持つことにつながった。
- 職員室に毎日新聞があることで、職員一人一人も新聞に目を通すことが多かった。また、教育に関する最新の情報があれば、管理職の方で切り取り配布し、全員で共有することができた。

【課題】

- △ 全校で取り組む機会としてNIEタイムを月に1回設けていることはよかったが、この時間だけで新聞のよさを実感させることや「読む・書く活動の充実」につなげることは難しいので他の取組を充実させる必要がある。
- △ 給食後や課題が早く終わった後、休み時間などにもっと教師側から提供してもよかったと思う。
- △ 新聞の活字が小さい、興味を持っても読めない漢字があるなどの理由から読むことに抵抗を感じる児童もいる。発達段階に応じて無理のない活用方法を考えていきたい。
- △ 投稿欄への一人一投稿を目標としていたが、実行することができなかった。年間を通して計画的な投稿が必要である。

6 最後に

NIE実践校としては本年度が最後の年となったが、新聞活用能力は今後も継続して身につけさせたい力である。「自分の考えを適切に表現できる子どもの育成」を深めたり、社会の変化や身近な出来事に興味関心を持ったりするためにも、学習の中に新聞を活用する機会を増やしていきたい。新聞離れが社会現象にもなっている現在、まずは私たち教師が新聞をもっと手に取り読むことが大事だと思った。そして児童の情報活用能力や読解力・語彙力を高めていくためにもこの取組を今後も継続していきたいと思う。

令和6年度 N I E実践報告（3年目）

鹿児島市立向陽小学校

1 はじめに

本校は、これまでに新聞を活用することで、「書く力」を中心とした学力の向上や言葉による表現力の向上を目指してきた。今年度は、本校の研修テーマである社会科とも関連付け、児童が新聞にふれる機会を増やし、自分が感じたことを豊かに表現できることを目標に、新聞を活用した様々な取組を行うことができた。

2 本校N I E教育の目標

新聞に慣れ親しみ 「書く」活動に活かす

低学年・・・新聞の写真や文字に興味をもち、新聞に親しむことができる。

中学年・・・新聞に対する興味関心を高め、新聞に親しむことができる。

高学年・・・新聞の読み方が分かり、興味関心のある記事を選択することができる。
記事の内容を自分の経験や体験と比べながら読み、記事に対する思いや考えを書くことができる。

3 実践内容

- (1) 新聞コーナーの設置
- (2) 新聞を活用した家庭学習（視写活動・回し読み新聞・ワークシート）
- (3) はがき新聞（読むのび教室の活用）
- (4) 新聞活用学習支援サイト「すくーる373る」の活用

4 研究の実際

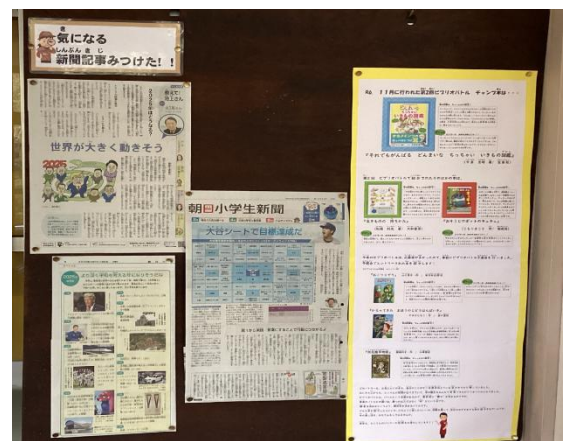
- (1) 新聞コーナーの設置

廊下や階段踊り場、図書室前等に「新聞コーナー」を設け、児童が日常的に新聞に親しめるようにしている。（月1回程度記事を更新）

今年度は、教科の学習を深めるために、学習と関連した記事を多く選定した。また、新聞の読み方の練習にもなるように、記事を選ぶ際、見出しに着目させた。



【階段踊り場の新聞コーナー】



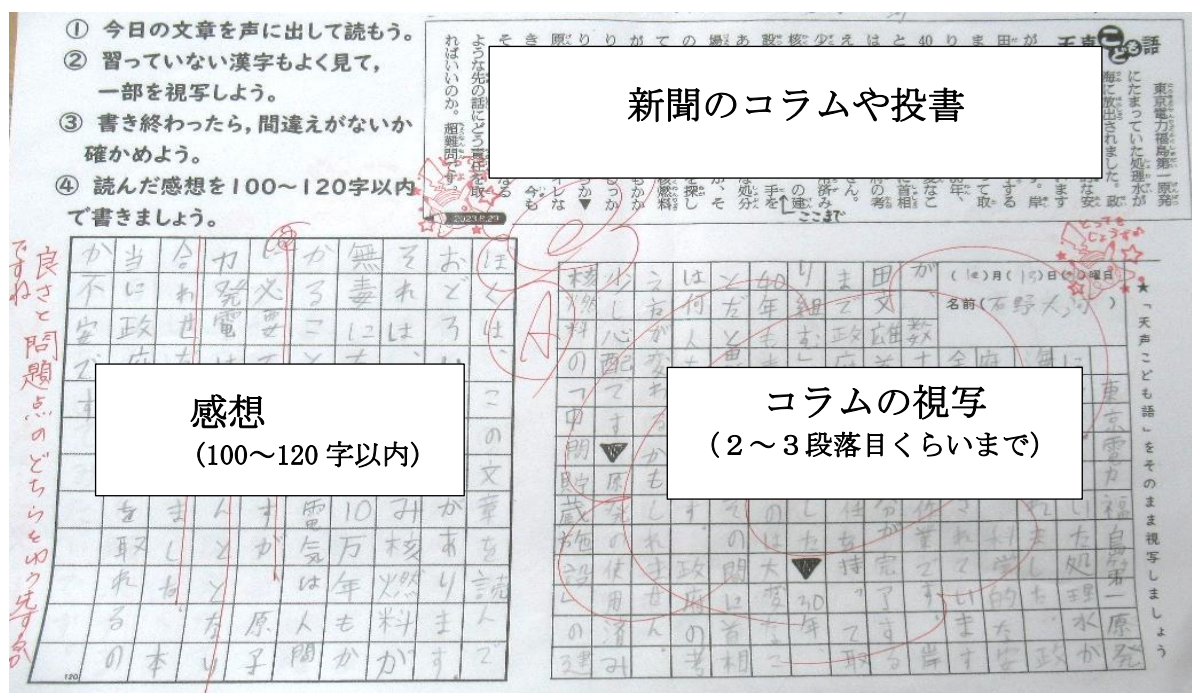
【図書室前の掲示の様子】

(2) 新聞を活用した家庭学習

今年度も高学年の取組として、家庭学習にも新聞を積極的に取り入れた。この取組は、令和3年度から継続されており、4年目となる。

【コラム欄の視写活動】

週に1度の家庭学習として、「天声こども語」(朝日小学生新聞)や「若い目」(南日本新聞)に掲載されているコラムや投書を視写し、意味調べや簡単な感想記入に取り組んだ。文章の構成や多様な言葉にふれることで、語彙が豊かになり、普段の日記や作文などに活用する児童が増えた。また、感想記入には文字数を設定することで、自分の思いを読み手に分かりやすく書いたり、簡潔に考えを述べる記述が見られたりするようになった。



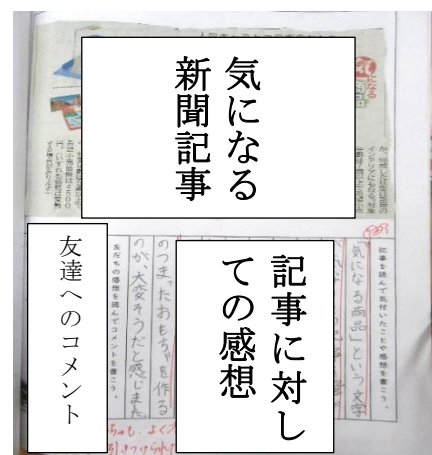
【視写活動の例】

【回し読み新聞】

各学級で「回し読み新聞」のファイルを作成し、1年間、気になる新聞を互いに読み合ったり、友達の考えにコメントをしたりする活動を行った。意外性のある記事や小さな記事を紹介する児童も多く、多様な考えにふれることができた。また、友達の考えを受け止めて自分の考えを書くことで、記事や友達の考えをしっかりと読む習慣が身に付いてきた。

＜回し読み新聞の取り組み方＞

- ① 担当になった児童が新聞から気になる記事を選び、感想を書く。
- ② 翌朝、担任へファイルを提出し、担任は次の担当児童へ回す。回された児童は、友達の感想にコメントを記入する。
- ③ 友達にコメントをしたら、自分が気になる新聞記事を選び、感想を記入する。
- ④ 担任は児童の感想を「若い目」や「子供のうた」などに投稿する。



【回し読み新聞例】

(3) 読むのび教室の活用

本校では、実践校になってから毎年南日本新聞社が主催する新聞教室「読むのび教室」に取り組んでいる。昨年度までは、新聞の読み方に関する内容を教えていただいていたが、今年度は新聞の読み方に加え新聞の作り方「はがき新聞」に取り組んだ。

4年生の国語「新聞を作ろう」・総合的な学習の時間「大好き鹿児島」の内容と関連させ、校外学習の前後に、新聞社の方に来校していただいた。校外学習に出かける前に、取材の仕方や見学の視点を教えていただくことで校外学習の充実を図ることができた。また、自分が実際に体験・経験したことを新聞にする際には、見出しの言葉を児童が吟味したり姿や絵や図を入れる場所を工夫したりするなど、読み手を意識した製作に取り組めることができた。



【児童のはがき新聞】



【読むのび教室の様子】

(4) 新聞活用学習支援サイト「すくーる373る」の活用

今年度は経済産業省の事業実証校として、上学年で新聞活用学習支援サイトを活用した。本サイトには、タブレットにアプリがダウンロードされており、ID等を取得すれば、すぐに活用することができた。

<活用例>

- ① 朝の会で新聞を読んだり、気になる記事を紹介し合ったりする。
- ② 社会科や総合的な学習の時間の調べ学習として、新聞記事を検索する。
- ③ 朝読書や図書の時間に新聞や連載記事を読む。
- ④ ワークシート（みなみEdu）をロイロノートと併用して使用する。



【朝の会で新聞を読む様子】



【読んだ記事をロイロノートで紹介】

5 成果と課題

成果

- ・ 今年で3年目ということもあり、児童が新聞や新聞記事を生活の一部として感じている。見出しや写真を手掛かりに、気になる記事を選んだり、これまではあまり興味を示さなかった分野の記事にも挑戦したりする姿が見られるようになった。
- ・ 家庭学習で継続して新聞を読む機会を設けることで、活字に対する苦手意識が少なくなってきた。また、感想文章が表現豊かになってきている。また、諸調査でも自分の考えを書いたり、説明したりすることに対する苦手意識がなくなっている。
- ・ 新聞を活用した取組により、これまで知らなかった言葉と出会うことができ、児童の語彙が広がっていることを感じる。また、普段のノート記述にも新しい言葉を進んで活用したり、より分かりやすい表現を生み出したりしようという姿が見られるようになってきている。さらに、新聞から正しい表現の仕方を学んだり、資料の正確性などを問うたりすることができるようになってきている。
- ・ 自分の思いや考えを文章だけでなく、俳句や絵など様々な方法で、進んで表現しようとしたり、表現することを楽しんだりする姿が多く見られるようになった。
- ・ 新聞活用学習支援サイトの活用により、新聞を定期購入していない児童でも、新聞を読むことができた。また、新聞に興味を持ち家庭でも読んだり、家族に記事を紹介したりする姿が見られた。来年度は3年生以上での導入を検討中である。

課題

- ・ 低学年は新聞コーナー以外での取組が少なかった。様々な活用例を紹介して、楽しく新聞を活用できる取組を行っていききたい。
- ・ 読む力（漢字の読み方・読む速さ等）に個人差がまだ大きい。活字に継続的にふれさせて、読むスピードや量を向上させていききたい。
- ・ 実践教員から教職員へ活用方法の還元をするための時間（校内研修での時間設定・学年会での教材研究等）をしっかりと設け、来年度以降も全校体制で取り組んでいくための手立てを工夫していききたい。

6 来年度に向けて

今年度は、これまでの実践に加え、ICT 機器を活用した実践に取り組むことができた。これまでの本校での取組を基に、様々な立場から取組への考えや意見を出し合い実践できた。4年目に向け、さらに内容の整理を行い、充実した指導を図っていききたい。

令和6年度 N I E 実践報告（2年目）

志布志市立志布志小学校

1 はじめに

本校は、志布志市中心部に位置し、全校児童265名の学校である。NIE の実践を通して、自分の思いを表現したり、考えを広げたりすることができる子どもの育成を目指している。今年度も、新聞を活用していくことで、自分の思いを表現する機会を増やしたり、必要な情報を読み取る力を身に付けたりすることができるよう実践を行った。

2 本校 NIE 教育の目標

新聞に親しみ、自分の思いを表現したり、考えを広げたりすることができる子どもの育成

【低学年】

○ 新聞の写真や文字に興味をもち、新聞に親しむことができる。

【中学年】

○ 新聞を読み、記事に対して自分の思いや考えを表現することができる。

○ 学習したことを新聞にまとめることができる。

【高学年】

○ 興味のある記事を選択し、自分の感想や意見を友達と共有することができる。

○ 新聞を読み、事実を基に自分の考えをまとめることができる。

3 実践内容

(1) 新聞コーナーの設置

(2) 新聞を活用した授業実践

(3) 新聞を活用した家庭学習や家庭との連携

(4) 新聞社（ひろば、子供のうた、こども五・七・GO!）への投稿

4 研究の実際

(1) 新聞コーナーの設置

図書室に新聞コーナーを設置することで、子供たちが誰でも新聞に親しむことができるようにした。自ら進んで新聞を読もうとする子は少なかったが、子ども新聞が置いてある時期には、新聞をめくりながら興味のある記事を探そうとする姿が見られるようになってきた。また、廊下に「オセモコ」を掲示することで、友達と記事を見ながら話をしたり、気になることを質問したりするなど、新聞に慣れ親しむ様子が増えている。



(2) 新聞を活用した取組や授業の実践

低学年の子供たちも新聞に慣れ親しむことができるように新聞を使った言葉探しゲームを行った。平仮名・カタカナ・これまでに習った漢字など、探す文字を指定し、時間内に見つけ出していくものだ。始めは「小さい文字だ。」「読めないよ。」と言っていた1年生も、「〇〇なことが書いてあるよ。」と記事の内容にも注目することができるようになってきている。



また、この活動をととして文を読みながら線を引いたり、気になったところに印をつけたりする姿が見られるようになってきた。

生活科や社会科の学習において新聞記事を基に構成を考えたり、見出しやまとめ方の工夫を見つたりすることができた。2年生の生活科「もっとなかよしまちたんけん」のまとめに新聞作成を行った。3年生の社会科においては、ロイロノートを活用し、「スーパーマーケット新聞」作成することができた。



5年国語科「新聞を読もう」の学習では、実際に新聞を手にとって興味のある記事を選ぶ活動から始めた。新聞をめくりながら、いろいろな記事があることに気づき、自分の感想をまとめることができた。



(3) 新聞を活用した家庭との連携

高学年を中心に、「みなみEdu」にあるワークシートを活用した宿題の実施や、「よむのびコンクール」の応募に取り組んだ。特に「よむのびコンクール」では、子供たちが自ら選んだ記事に興味を持って取り組む親子が多かった。



(4) 新聞社(ひろば, 子供のうた, こども五・七・GO!)への投稿

昨年度に続き, 新聞社への投稿に積極的に取り組むことができた。掲載された作品は, 図書室前や教室, 校長室に掲示されているため, 自分の作品が記事になることの喜びを感じている姿や, 「掲載されるように頑張りたい。」という意欲の高まりが感じられるようになった。



5 成果と課題

成果

- 昨年度に引き続き, 新聞投稿を目指して意欲的に取り組む姿が多く見られ, 表現することの楽しさを味わうことができた。
- 「オセモコ」の記事をきっかけにして, 図書室に置かれた「こども新聞」を読もうとする子もおり, 新聞を身近に感じられるようになっている。
- 新聞を活用した取組を行うことにより, 活字に触れる機会が増え, 文字量の多い文章を読もうとする力が身に付いてきている。

課題

- △ 学年や学級において取組にバラつきがあったので, 学校全体で取り組むことができるよう係が中心となって継続的な活動ができるようにしていきたい。
- △ 日常的に新聞に触れる機会が作れるよう, 子供達がもっと身近に新聞を手にとる環境を整えていく必要がある。
- △ 2年目の実践であったが, 新聞に慣れ親しむことを中心とした活動がほとんどだった。新聞の記事の内容を読み取り, 記事(事実)を基に自分の考えを広げる活動などを取り入れていけるよう, 「読む力」の向上を図っていききたい。

児童が主体的に新聞とかかわり、対話を通して学びを深める 「川畑のNIE」

南さつま市立川畑小学校 教諭 野崎 弘樹

1 はじめに

本校は、児童数 61 名の単学級構成の学校であり、児童が伸び伸びと学校生活を送っている。

教育目標である、「共に学び 高め合い 伸びる 川畑っ子の育成」を目指し、友達と協力しながら学習を進めることや、自分の考えを伝え合うこと、児童が自ら学習について選択したり決定したりすることなどを通して、主体的に学びを進める児童の育成につなげている。

実態調査の結果から、友達と協力しながら学習を進めたり、自分の考えを伝え合ったりすることは、学習効果を高めると実感している児童も多く、これらを NIE の活動につなげ、学びを一層深めたいと考えた。

そこで、本校における NIE のテーマを、

児童が主体的に新聞とかかわり、対話を通して学びを深める「川畑のNIE」

と設定し、実践を進めることにした。

2 本校の取組

本校での NIE の取組として、

- (1) 新聞の時間の実施
- (2) 新聞への投稿
- (3) NIE コーナーの設置
- (4) 授業の実践

を掲げ、年間を通して計画的に実践を重ねた。

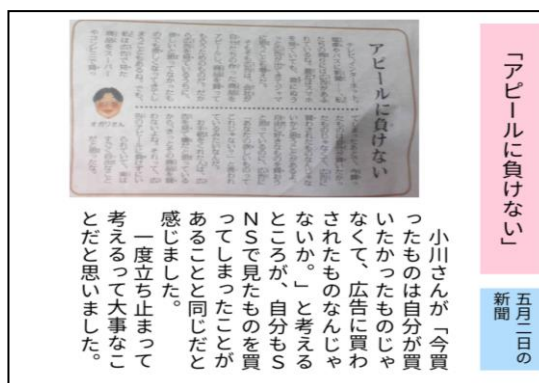
3 活動の実際

(1) 新聞の時間(新聞を読む、新聞で話す)の実施

本校では、月曜日の朝に 10 分間、読書の時間を帯活動として設定している。児童は図書の本はもちろん、新聞を手に取り、記事を読み進めていた。下学年では、担任と一緒に新聞を読み、どんな内容であるか読み聞かせたり、説明をしたりする活動を行った。上学年では、「読んでみて思ったこと、考えたこと」を中心に友達に紹介したり、ロイロノートを使ったワークシートに入力し、紹介新聞を作成したりした。児童は、「これ(この記事)って、こういうことだよな。」「私はこう思うな。」など、記事を通して内容を確認めたり、自分の考えを伝え合ったりしていた。



【新聞を読み合う児童の様子】



【児童がロイロノートにまとめた「紹介新聞」】



【新聞の時間に記事の紹介や感想を述べる児童】

自分が選んだ新聞記事を読んで感じたことや考えたことをまとめたり、感想を友達に伝え合ったりする活動を通して、自分事として考えたり、共感したり、新たな考えに気付いたりすることができた。

(2) 新聞への継続投稿

日々の学校での教育活動で書いた文章や作品、家庭学習で書いた日記などの作文を、南日本新聞の「若い目」や「子供のうた」へ継続して投稿した。令和5年度からの2年間で60を超える児童の作品掲載や教育活動の紹介をしていただいた。また、南日本新聞社が主催している「親子で読む 学ぶ 楽しむ よむのびコンクール」には、4年生から6年生の児童全員が参加し、新聞を通して社会に視野を広げるきっかけを得ることにつながった。

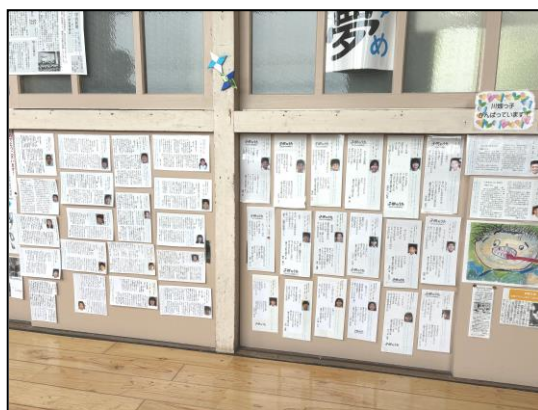


【掲載された記事を読み児童(左)と、記事と一緒に記念撮影をする児童(右)】

(3) NIE コーナーの設置

2年間で60を超える新聞掲載の軌跡を、校長室前に掲載コーナーとして常時掲示している。児童は自分の作品や友達の作品が掲示されていることに喜びを感じ、新聞への興味関心を高めることにつながっている。また、新聞掲載時には地域の方からの称賛の声も多く寄せられ、励みとなっている。

また、教室前には「NIE コーナー」を設置し、児童が新聞を手にとって気軽に読めるようにしたり、前述した児童が書いた記事の紹介を掲示したりした。



【校長室前に掲示している児童の顔写真入りの新聞掲載記事】



【新聞をすぐに手に取って読める「NIEコーナー」】

(3) 授業の実践

社会科や特別活動、図画工作科など、教科の垣根を越えて横断的に新聞を活用し、対話を通して表現力や思考力を高められるような実践を行った。

ア 新聞づくり（社会科、特別活動）

社会科の学習で学んだことをまとめる方法として、新聞の構成の一部を生かした「歴史新聞」を作成させた。新聞名や発行者、見出しや記事に分けて作成し、使いたい教科書資料を撮影した写真にはキャプションをいれるなど、児童一人一人が工夫して新聞づくりに取り組んだ。作成後は、係活動にもこの学習を生かし、学校新聞を定期的に作成し、各学年や校長室、職員室に配達するなど、主体的に新聞とかわかって学ぶ児童の姿も見られた。



【児童が作成した新聞「レキシンプン」】

イ 新聞を使った図画工作活動

1・2年生の図画工作科の学習で、新聞を自由に破って好きな形を作ったり、つなげて新しい形を作ったりした。大きな紙を自由な発想で破って形作り、「へびに似ているよ。」「これをつなげたらどうかな。」など、対話を通して想像力を働かせていた。



【新聞を破って形作る児童】



6年生が係活動で作成した学校新聞。月ごとに発行し、各学級や職員室、校長室に配達した。新聞を身近に感じ、自然と学習に生かそうとする姿が見られた。下級生は届いた新聞を読み、頑張った行事について思い起こすとともに、手作りの新聞を通して、新聞が身近な読み物であるという認識につながった。

ウ 全校児童で作り上げる「学校かべ新聞」

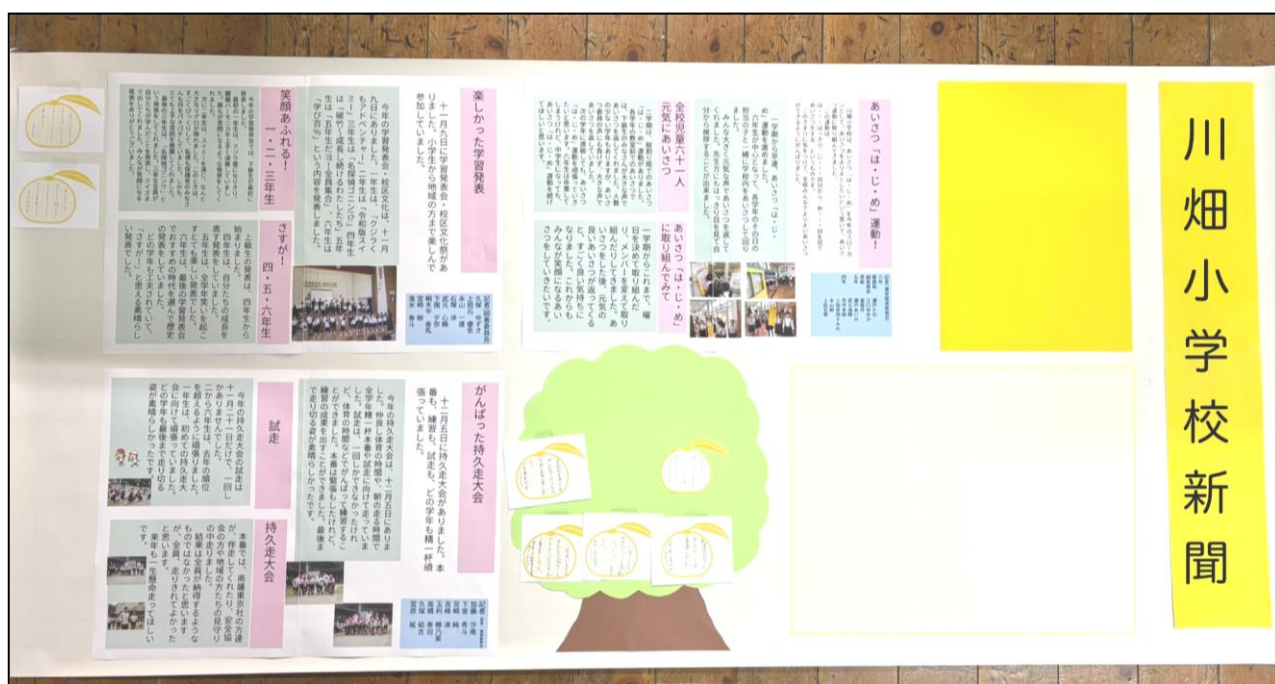
委員会活動で学校のNIEの取組を盛り上げたいという思いから、「学校かべ新聞」の制作プロジェクトを立ち上げた。これは、本校にある4つの委員会が中心となり、川畑小学校のことを行事等を通して紹介する新聞記事を作成し、つなぎ合わせて大きな1枚の新聞にする取組である。4年生から6年生の委員会所属児童全員で作り上げられるように、一人一人役割をもち、制作に取り組んでいる。1年生から3年生には、行事に取り組んだ際の感想をインタビューで答えてもらい、新聞に掲載できるようにすることで、全校児童61名全員で一つの新聞を作り上げている。



【学校かべ新聞のレイアウトを話し合う児童】



下級生に行事についてインタビューを行い、楽しかったことなどを記事にまとめた。



【完成間近の「川畑小学校かべ新聞」】

4 取組の成果と課題

(1) 成果

- 取組を通して、児童が新聞を身近に感じる機会をつくることができ、新聞をもっと読みたい、社会についてもっと知りたいといった興味関心を高めることにつながった。
- 新聞を学習活動に活用することで、児童に対話が生まれ、自分の考えを伝え合ったり、新しい考えに気付いたりすることができた。
- 教科を絞らずに広く新聞に触れることで、ある教科で新聞を通して学んだことを他教科へ生かしたりするなど、新聞を通じて主体的に学びを進める姿が見られた。

(2) 課題

- 取組が主に高学年を中心としたものとなっており、低学年の段階からの活用方法について検証していく必要がある。
- 新聞を日常的に手に取り、身近に感じる児童の割合を一層高めていく必要がある。

令和6年度N I E実践報告（実践校1年目）

薩摩川内市立城上小学校

1 はじめに

昨年度の学力調査で、本校の児童は長い問題文や本文を読むこと、その内容を大まかに理解したり要約したりすることに課題が見られた。その要因として、児童が長文に触れる機会が少ないことや文章を書く機会が少ないことなどがあげられる。

そこで、昨年度から、これらの課題解決の一つの方法として、新聞を使った活動に取り組むことにした。なお、1年目は、児童だけでなく職員も新聞活用に慣れることを意識して活動を組み立てていった。

2 テーマ

「新聞に親しみ、自分の学習や生活の中で、生かすことのできる児童の育成」

3 学年の目標

- (1) 低学年
新聞の写真や文字に興味を持つことができる。
- (2) 中学年
新聞への興味関心を高め、新聞に慣れ親しむことができる。
提示された新聞記事に対して感想を書いたり、自分の思いを表現したりすることができる。
- (3) 高学年
新聞のよさに気づいたり、興味ある記事を選択したりすることができる。
新聞記事を読んで、自分の感想や意見をまとめ、記事に対する考えを友だちと交流することができる。

4 実践項目

- (1) 新聞コーナーの設置
- (2) 新聞の興味を持つための取組
 - ・ おすすめの記事の紹介
 - ・ 記事から感じたこと考えたこと
 - ・ クイズ等の掲示
- (3) 新聞を活用した授業実践
- (4) 新聞への投稿やよむのびコンクールへの参加

5 実践事例

- (1) 新聞コーナーの設置
これまでも図書室前に新聞コーナーを設置していたが、場所が狭かったため、新たに保健室近くの廊下にコーナーを新設した。
写真のように、4社の新聞を読み比べられるように設置し、児童がその場で新聞を手に取り読むことができるようにした。
全体として、自分から新聞を手に取り、読む児童は多いとは言えないが、手軽に手に取れることで、調べ学習等で活用する児童の姿が見られた。



【1学期の新聞コーナー】



【2学期の新聞コーナー】

(2) 新聞に興味を持つための取組

ア おすすめの記事の紹介

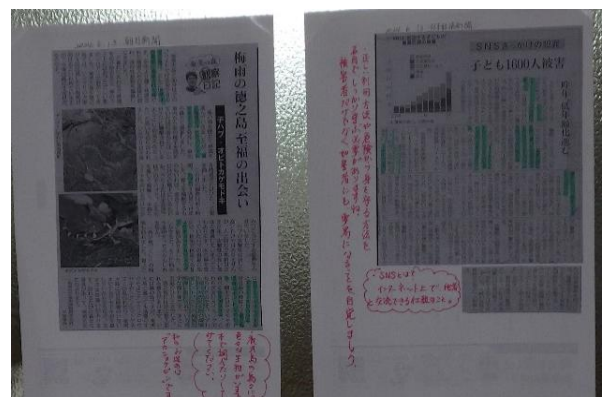
新聞コーナーを設置したが、普段から新聞に親しみの無い児童は、手に取って読むことが無かった。そこで、児童が新聞やそこに書かれている記事に興味を持つように、コーナーの向かいの壁に、職員のおすすめの記事を掲示した。掲示した記事は授業に関係するものから職員の興味や関心のあるものまで多岐に渡るようにした。

掲示方法も工夫を行った。同じ記事を複数紙掲示し、構成や記事の内容を比較できるようにした。

低学年児童は、漢字が難しく読むこと自体が困難だったので、記事に読み仮名を振ったり、記事の内容を要約した説明文を付けたり、関係のある部分にマーカーで印をしたりして、記事の内容が理解できるような工夫を行った。



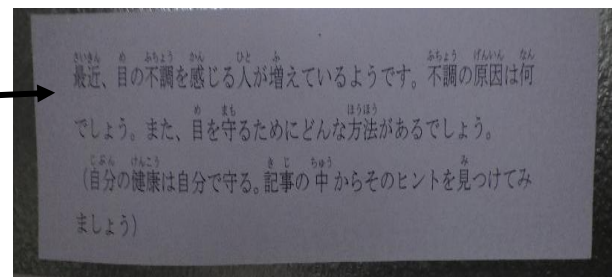
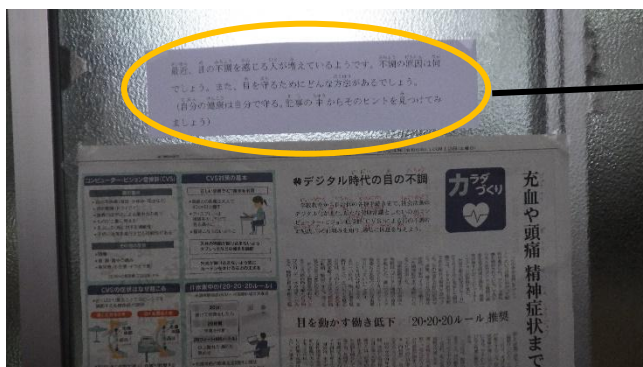
【おすすめの記事コーナー】



【記事に読み仮名や説明文を付けた】

イ 記事から感じたこと考えたこと

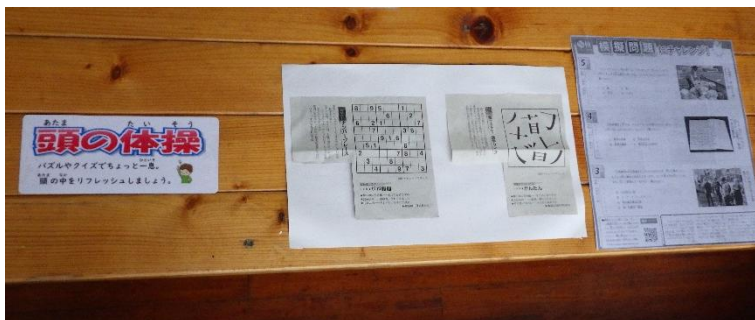
おすすめの記事の掲示に児童が興味を持ち始めたところで、掲示した記事の内容を児童が主体的に読むように、記事の内容を問う文章を添付した。質問を読んだ児童は、記事を読んで答えを探そうとする様子が見られた。



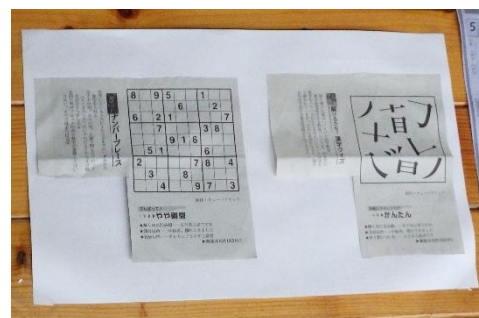
【記事の内容を問う文章を付けた】

ウ クイズ等の掲示

記事を掲示するだけでは、興味を示さない児童いたことから、新聞に掲載されている間違い探しやクロスワード等のクイズを掲示した。新聞記事に興味を持たなかった児童が、新聞コーナーでクイズを解いたり、解答を確認するために新聞を手にとったりする姿が見られた。興味や関心を持つ入り口として効果があったと考える。



【頭の体操コーナー設置】



【実際の問題】

(4) 新聞を活用した授業実践

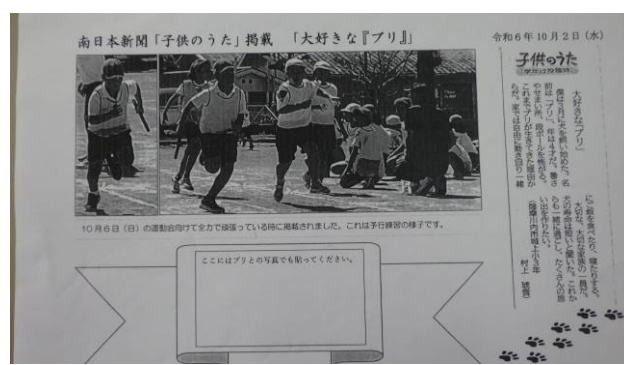
4年生国語科の壁新聞を作る学習や5年生国語科の新聞を読もうなど、これまでも授業で新聞を活用してきた単元を中心に活用を図った。職員も授業に利用するために実際に手にとることで、次の利用につながっていった。

(5) 新聞への投稿や読むのびコンクールへの参加（書く活動）

児童が書いた日記や行事の感想をもとに、新聞への積極的な応募を行った。現在17人が応募し、内11人が新聞に掲載された。



【掲載された記事】



【掲載された記事と児童の写真】

6 成果と課題

(1) 成果

- 日常的に新聞に触れる場を整えたり、新聞に触れる機会を設けたりしたことで、新聞に興味・関心を持つ児童が増えてきた。
- 身近に活用できる新聞があることで、職員が新聞活用しやすくなり、活用する機会が少しずつだが増えてきた。
- 新聞に掲載されることで、達成感や成就感を味わい、成長する児童の様子を見ることができた。

(2) 課題

- ・ 長文を読む力や文章を書く力の育成には至っていない。教科や家庭学習等での活用を進めていく必要がある
- ・ 学年によっては読むこと自体難しいので、児童が気軽に手に取り、読むための更なる工夫が必要である。

令和6年度 N I E実践報告（1年目）

肝付町立宮富小学校

1 はじめに

本校は、単式学級（1年、2年）、複式学級（3・4年、5・6年）が2学級、特別支援学級（情緒障害学級、知的障害学級）が2学級の計6学級、児童数55名の小規模校である。

今年度、初めて本実践に取り組むにあたり、本校児童の学力面での課題である「読むこと」「書くこと」、教員の業務改善の両面を踏まえて、実践することにした。

2 テーマ

新聞の利活用を通して、以下の資質・能力の育成を図る。

- （1）新聞に慣れ親しませる。
- （2）目的に応じて文章や資料を読む能力を育成する。
- （3）図表と文章を関連付けて読んだり、書いたりする能力を育成する。
- （4）正しい情報を見分け、適切に活用する能力を育成する。
- （5）社会への関心を高め、自分ごととして考えを深める。

3 実践内容

- （1）N I Eコーナーの設置（職員室前、図書室）
- （2）各教科を関連付け、新聞を利活用した教育活動の実践と工夫（各教科授業、表現タイムなど）

＜活動例＞

- ・ 新聞を活用した遊びや工作（主に低学年）
- ・ 新聞の文字や写真を使った遊びや俳句等の創作活動
- ・ 若い目、子供のうたを参考にして、書き方のよさを捉える活動 → 新聞投稿へつなげる。
- ・ 関心をもった新聞記事を読み、感想を伝え合う活動
- ・ 学習のまとめを新聞形式でまとめる活動
- ・ 複数の新聞を読み比べ、内容や表現の違いや特徴について気付かせる活動
- ・ 新聞に関連したコンクール等への出品（夏季休業中）

年間指導計画等を確認して、実践計画を立てる。
・ どんないでねらいで
・ どの教科（時間）に
・ どんな活動をするか。

など

- （3）実践の振り返りとまとめ（次年度の取組の重点化）

4 実践の実際

- （1）N I Eコーナーの設置

本校児童は、日頃、朝の登校時に、職員室に寄ってあいさつをする。そこで、写真1のように、職員室前にN I Eコーナーを設置し、その日の新聞を掲示した。特に注目させたい記事があった際は、「注目」の矢印札（写真2）をつけた。他にも、赤ペンと定規を置き、子どもが気になった記事や写真等に印がつけられるようにした。

また、図書室にも写真3のようにN I Eコーナーを設置し、過去の新聞を棚に並べて、学習で活用しやすくしたり、写真4のように、記事の切り抜きを掲示して興味・関心を高めたりした。

さらに、写真5のように、職員室内に「先生方のためのN I Eコーナー」を設置し、日々の実践に役立てられるようにした。



写真1 職員室前 NIE コーナー
に集まる児童



写真2 「注目」の矢印札



写真3 図書室のNIEコーナー



写真4 NIEコーナーの掲示物



写真5 職員室のNIEコーナー

(2) 各学年・児童会の取組

ア 第1学年 国語科全般

- (ア) 目標
- ・ 正しく視写することができる。
 - ・ 興味をもった写真の内容を聞き、感想を書くことができる。
- (イ) 内容
- ・ 興味のある写真を選び、記事の内容について、担当がまとめた文章を視写し、その大まかな内容について知り、感想を書く。(写真6) ※ 表現タイムで継続的に実践
- (ウ) 児童の姿から
- 新聞を読むことはできないが、興味のある写真を見つけて、何が書かれているか担任に尋ねていた。
 - 定期的に継続することにより、視写の力が高まり、感想の広がりが見られるようになった。
- ▲ 教室での新聞コーナーを設定して、時間設定をしなくても、自主的に興味のある写真を見つけられるような工夫をしていきたい。

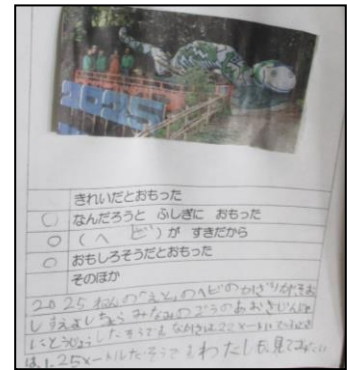


写真6 児童の作品

イ 第2学年 国語科「新ぶんにふれよう」

- (ア) 目標
- ・ 新聞記事を読み、興味関心をもつことができる。
 - ・ 新聞記事から大事なことを抜き出したり、感想をもったりすることができる。
- (イ) 内容
- ・ 子ども新聞の記事から気になる記事を見つけて出来事をまとめる。
 - ・ 気になる記事を読んで感想を書く。
 - ・ 記事を切り取り、ワークシート(写真7)に貼り付ける。
- (ウ) 児童の姿から
- 子どもたちが新聞に興味を持ち、図書室やNIEコーナーで新聞を読むようになった。
 - 文章から大事なことを抜き出すことで、国語の学習に繋げることができた。
- ▲ 長い文章から大事なことを書き抜くことが苦手な児童への支援が必要だった。

新聞読んだよシート		年 月 日 ()
記事のタイトルを書き写そう		
どんな記事だったのかな？(最初の段組にまともになっていることが多いです。)		
いつ		
どこで		
だれが		
なにをした		
気になった言葉を書き出そう(言葉を調べたり、新聞記事をもんだりしてみよう)		

写真7 ワークシート

ウ 第3・4学年(複式) 国語科・朝の1分間スピーチ、表現タイムでの速音読及び感想交流

- (ア) 目標
- ・ 新聞に対する興味関心を高め、新聞に親しむことができる。
 - ・ 新聞の読み方が分かり、興味関心のある記事を選択することができる。
 - ・ 選択した記事について、思ったことや考えたことをまとめ、友達と交流することができる。
- (イ) 内容
- ・ 朝の1分間スピーチについて
合同で国語の学習を実施・・・新聞記事の選び方、感想の書き方、発表後の感想の出し方などについて理解する。発表の準備をする。(写真8)
 - ・ 朝の会での発表日に一人輪番で発表し、感想を交流する。
 - ・ 昼の活動での速音読(月1～2回程度の実施) ※ 15分
 - ㊦ 学年毎の課題記事を教師から配布する。
 - ㊧ 1回目の音読→ タイム測定
 - ㊨ 2回目の音読→ タイム測定
 - ㊩ それぞれの記事で分かったことを学年毎に伝え合う。

(ウ) 児童の姿から

- 新聞記事の紹介をしたり、廊下へ掲示したりすることで、新聞に親しむきっかけとなった。
- 継続して新聞記事を選ぶ機会を設けることで、多様な記事の中から興味をもったものを選択し読み進めることができるようになってきている。



写真8 選択した記事についてまとめる児童

- 日常生活の中で、「先生、〇〇のことが新聞にのっていました。」「おばあちゃんの家の新聞で～を見ました。」等の会話が聞かれるようになり、新聞が生活の中に入りこんでいることを感じた。
- ▲ 「読む・書く」力に個人差があるため、感想を自分でまとめることのできない児童が見られる。
- ▲ 新聞を購入していない家庭も多いため、学校のみでの活動になってしまう児童がいる。

エ 第5・6学年（複式） 道徳科「地球一周を歩いた男－伊能忠敬－」

- （ア）目標 ・ 自分たちの中にある好奇心や興味・関心が真理の探究につながることを理解する。
- （イ）内容 ・ 知りたいことや分からないことがあるときにどうしているか振り返る。
- ・ 教材を聞き、伊能忠敬があきらめなかった根底にある思いを考える。
- ・ 探究する上で大切なことについて考える。
- ・ 学んだことを振り返り、交流する。（写真9）
- ・ 関連する新聞記事を読み、本時の道徳的価値を高める。



写真9 交流する児童

- （ウ）児童の姿から
- 自分たちの中にも、伊能忠敬のように好奇心や興味・関心があることに気づくことができた。
- 自分の興味のあることや気になることを深めていきたいという気持ちをもつことができた。
- 新聞を活用することで、自分たちから遠い話ではなく、身近なこととして捉えることができた。
- ▲ より自分事として捉えられるように、教科書から離れるタイミングを作ったらよかった。
- ▲ もっと子ども同士で交流する時間を確保して、考えを深められたらよかった。

オ すくすく学級1組（情緒障害学級） 自立活動「新聞に親しもう」

- （ア）目標 ・ 新聞の文字や写真、絵から情報を見い出す活動を通して、新聞から得られる情報の有用性に気付くことができる。
- ・ 日々の活動の中で、新聞に親しもうという気持ちをもつことができる。
- （イ）内容 ・ 新聞に関するイメージや思いを話し合う。
- ・ 今日めあてをつかむ。（「気になった新聞をスクラップしよう」）
- ・ 自分の気になる新聞記事や写真などを見付け、読み取る。
- ・ 見付けた記事を切り取り、スクラップし、簡単な感想を書く。
- ・ 学級で自分のスクラップした記事を発表し、学級で話し合う。
- ・ 本時のまとめをする。

- （ウ）児童の姿から
- 子どもたちの新聞に対するイメージが変わり親しみやすくなった。
- わからない文字があっても、どのような記事なのかについて、だいたい内容をつかむことができるようになった。
- スクラップすることを通して新聞に目を通す機会が増えた。
- ▲ 写真に目が行くことが多いので、見出しの書き方の工夫や今話題になっていることなどにも注目してほしい。
- ▲ 感想をもう少し内容のあるものにしていきたい。

カ すくすく学級2組（知的障害学級） 自立活動「感じたことを伝えよう」

- （ア）目標 ・ 新聞に掲載されている写真を見て、興味をもつことができる。
- ・ 記事に書かれてある大まかな内容がわかる。
- ・ 記事について感じたことと、その理由を表現することができる。
- （イ）内容 ・ 気になる新聞の写真を選ぶ。
- ・ 教師と一緒にその写真の記事を読んで大まかな内容を知る。
- ・ 記事を読んで感じたことを教師と一緒に振り返る。
- ・ 教師と一緒に様式にまとめる。
- ・ みんなの前で選んだ記事と簡単な感想を発表する。

- （ウ）児童の姿から
- 写真をみるだけでその事象に興味をもつことができた。
- 知らない言葉を教えてもらったり調べたりすることで、新しい知識が増えた。
- 写真をみて、記事を読み、感想を書くという一連の流れを通して、新聞を読む経験をさせることができた。
- ▲ 感じたことを文章で表現するのは難しかった。自分の力で表現するために、まず感じたことを簡単な言葉で発表するという経験を繰り返す必要があると感じた。
- ▲ 新聞記事に使われている言葉を理解することが難しい場合がある。

キ 専科（3年） 理科「2学期のまとめ」

（ア）目標 ・ 2学期に学習した単元を選んで、新聞にまとめ、理解を深める。

（イ）内容 ・ 新聞の書き方について知り、見出しや割り付けについて考える。
・ まとめ新聞をつくり、意見交換をする。

（ウ）児童の姿から

○ 書き方の例をもとに、自分なりに新聞にまとめることができた。

○ 他の友達のまとめ新聞を読み、内容やクイズの答えなどについて尋ねていた。

▲ 教科書を視写するだけの児童、用紙に余白が目立った児童など、個人差が大きかった。

ク 児童会（計画・運営委員会） 委員会活動「委員会新聞を作ろう」

（ア）目標 ・ 児童総会で話し合われたことやその後の取組を新聞にまとめることができる。

・ 見出しの書き方や記事の内容、写真の配置などについて
委員会で話し合い、ワープロソフトを使って仕上げるこ
ができる。

（イ）内容 ・ 新しい児童会新聞を作ろうという意欲をもつ。

・ 計画・運営委員会で話し合っ
て分担を決める。

・ それぞれの仕事内容にそ
って記事を書いたり、写
真をとったりする。

・ 委員長を中心に割り付
け、推敲し、完成させる。
（写真 10）



写真 10 タブレット端末で
新聞を作成する
児童

（ウ）児童の姿から

○ タブレット PC やパソコンを使
って新しい形の児童会新
聞を仕上げるこ
うことができた。

○ 委員長を中心に 6 人の児童が、
それぞれの役割にそ
って仕事をするこ
うことができた。

○ 何度も話し合いを重ね自分
たちの力で新聞を完
成させるこ
うことができた。

▲ 新しい形の新聞作りができた
が読み手のことをあ
まり考えてい
なかった。

▲ 今回の児童会新聞をもとに
来年度はさらに効
率的によりよ
い新聞作りを行
いたい

（3）新聞投稿

各担任が、子どもたちの日記や作文からよい作品を選び、積極的に新聞投稿を行った。また、今年度、町教委で導入した「すくーる 373」を活用して、オンラインで新聞投稿を行った学級もあった。掲載された作品は校長室前の掲示板に掲示した。（写真 11） ※ 4 点掲載（令和 7 年 1 月 20 日時点）



写真 11 校長室前に掲
示された児童作品

5 成果と課題

（1）成果

- ・ 職員研修等で、N I E に関する研修を行い、理論的な内容の研修や取組例の紹介だけでなく、各自で教材研究をしたり、それぞれの取組について情報交換をしたりして、理解を深め、実践への意識が高まった。
- ・ 実践 1 年目ではあるが、全学級、授業を担当する全教師で実践することができた。
- ・ 登下校時や休み時間に N I E コーナーで新聞を読む子どもたちが増え、実践前よりも新聞に慣れ親しむ様子がうかがえた。
- ・ 気になる記事や写真を選び、感想を書く活動を継続的に実践した学級においては、子どもたちの読む力や書く力が身に付いた。
- ・ 図書室で興味のある記事を探し、同じ情報でも、新聞社によって内容や書きぶりが異なることに気付き、意見を交えている子どもたちの姿が見られた。

（2）課題

- ・ 実践 1 年目ということもあり、1 学期の実践を充実させることが難しかった。今年度の実践と他校の実践を参考に、さらなる充実を図っていきたい。
- ・ 新聞への興味・関心、読む力、書く力に関する個人差が大きい。
- ・ 家庭における新聞活用について、紙媒体の新聞を読んでいない家庭があり難しい。
- ・ N I E の目的の達成はもちろんではあるが、業務改善の観点もしっかり意識して、無理なく実践を続けていきたい。

令和6年度 NIE 実践報告

奄美市立朝日中学校 国語科

1 はじめに

本校では「読み取った情報をもとに自分の考えを発展させて、視野を広げる」ことを主題として、3年間の実践活動に取り組んできた。NIE 実践3年目となった今年度は、これまでの活動を踏まえて、その活動内容をより充実させることができた。1年目と比較しても NIE の活動を生徒が理解しており、新聞に限らず、さまざまなメディアから時事ニュースを収集し、話題に取り上げている姿が見られるようになってきている。また、授業でも新聞を教材として取り上げるごとに生徒が興味をもち、自分の経験を振り返ったり、知識を織り交ぜたりしながら制作活動や話し合い活動に取り組んでいる。特に今年は NIE 全国大会京都大会に参加したことで、それぞれの地域でどのような活動が展開され成果を上げているかや、また、授業で情報を取り扱う際の教員としての知識、適切な指導の在り方についても学ぶことができた。本年度の反省を踏まえ、来年度の更なる成果に繋がるように活動を振り返りたい。

2 目標

「読み取った情報をもとに自分の考えを発展させて、視野を広げる。」

私たちを取り巻く多くの情報の中から、時と場合に合わせて最適な情報を取捨選択し、吟味し、分析・総合する力を身に付け、自分の考えを確立させたり視野を広げたりする力を養わせる。

3 実践事例

(1) 新聞コーナーの設置

生徒がいつでも読める場所、生徒の往来が多い場所、そして生徒が一日に必ず通る場所として、生徒靴箱前に新聞コーナーを設置した。全国紙と地方紙を合わせて6紙を置き、生徒が閲覧できるようにした。

- ・ 新聞コーナーの設置期間を、今年度も5・6月と1・2月の二回に分け、5・6月は新入生に NIE 実践の周知や本校の活動を浸透させることを目的とし、1・2月は受験生へ時事問題の話題を提供するために設定した。
- ・ 全国紙・地方紙のニュースの取り扱いの違いや、立場によって視点や論点が異なる点などに気付くことができた。
- ・ 登校の際に各紙の一面を見比べて、社会で一番大きな話題をすぐに把握できるようになった。



靴箱の目の前に設置している新聞コーナーの様子。登校して教室に入る前に確認する生徒や、移動教室の途中で立ち寄って見る生徒も増えてきている。

(2) スクラップ記事コーナーの設置

「新聞を読む＝難しい情報が多い」ととらえている生徒に向けて、時事ニュースだけではないさまざまな新聞記事をスクラップにして紹介している。選ぶ記事には特に規則性や一貫性がなく、本校に保管されているさまざまな時期・年度の新聞記事を集めることによって、かえって生徒たちは思い思いの時間を楽しんでいる。

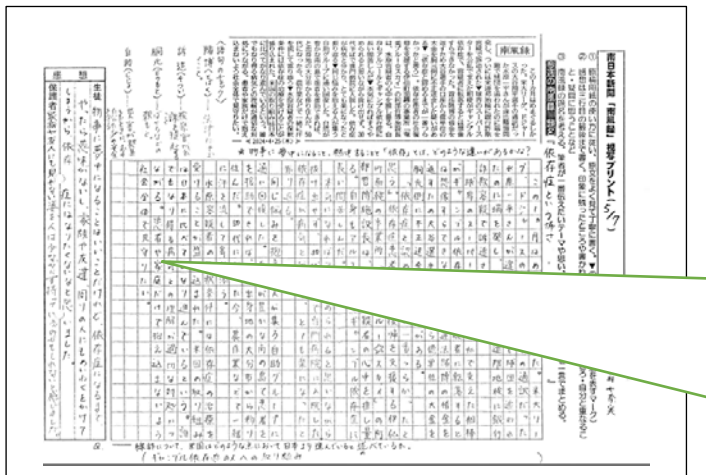


地方紙・全国紙のさまざまな情報が入り混じっているので、生徒は歯みがきの合間に読むこともある。中には学級文庫に入っている本の著者のインタビュー記事があり、うれしそうに報告する生徒もいた。

(3) 南風録の書写

週末課題として南日本新聞の「南風録」の書写と感想を書かせる取組を継続して実施している。

- ・ 慣用表現や新しい語彙に触れることで、さまざまな場面の感想に使われる表現が以前より豊かになった。
- ・ 自分の考えに新しい視点や価値観を取り入れたり、視野を広げたりすることができた。
- ・ 時事的な話題に触れ、世間に対する興味や関心を喚起することができた。
- ・ ディベートやグループディスカッションの授業で、話題や根拠として、得た情報や知識を活用することができた。
- ・ R6年度から、保護者にも一筆感想を求める欄を増やした。(可能な限りで書いていただく。) 親子で感想を語り合う機会になり、意見が一致したり意外な意見が出たりと、生徒たちも楽しんで取り組んでいたようだ。



保護者からのコメント

さまざまなことに興味をもち、視野を広げてほしい。
興味のないことも読む良い機会だ。
記事を読んで自分事としてとらえてほしい。

その他にも、経験に基づいた感想や社会に対する鋭い指摘などもあり、
掲示されたコメントを見ている生徒の
会話が盛り上がった。

(3) 新聞社への投稿

ア 南日本新聞の「若い目」に生徒の作品を投稿する。

- ・ 定期的に投稿することで、部活動面だけでなく文化的な活動としての話題になった。
- ・ 掲載された生徒やその内容に触発された生徒を中心に、表現力を向上させようと努力する姿が見られた。
- ・ 作文に関する授業や取組に生徒が前向きになってきた。

イ あまみ子ども読書・新聞応援プロジェクトへの作品の提供

地元紙の「奄美新聞」と「南海日日新聞」に、生徒の作品を二つずつ提供する。



地元の新聞社に自分の投稿作品が掲載されると、近所の人たちからも声がかけてうれしい。

(4) 壁新聞づくり・レポート作成

昨年度実施した「よむのび教室」での学習を生かし、新聞の見出しや紙面の構成を工夫しながら新聞を作成した。新入生向けに朝日中学校の生活や学校行事、委員会活動、部活動などさまざまなことを紹介した壁新聞づくり（グループ活動）や、修学旅行に関する事前・事後学習の一環での平和新聞づくり（個人活動）、授業を終えて発展的に環境問題について自分の考えをまとめた環境問題新聞づくりを行った。



4 活動の成果

- (1) 3年生は進路に向けた準備の一環で、時事問題を確認しにくる姿が見られた。
- (2) 地方紙と全国紙の一面を比較し、どの新聞がどのような視点で記事を書いているか、どのような違いがあるかなどに気付くことができ、自分の考えを深めたり広げたりすることができた。
- (3) 新聞を読むことで、自分も作文を投稿したいという意欲をもつ生徒が増えてきた。
- (4) 新聞から得た時事的な話題に関する知識を生かし、道徳や国語等の授業で発言したり感想を書いたりする生徒が増えてきた。
- (5) 国際情勢の変化や政策に関する情報など、自分を取り巻く環境や社会に関心を示し、将来や社会に対して自分の考えをもつようになってきた。

5 課題及び反省点

- (1) 学びの深化や教科横断的な学習のためにも、複数の教科でも新聞をより一層取り入れたい。

6 次年度に向けて

- (1) 新入生への年度当初の周知を継続し、新聞が身近なものであるという感覚を養わせる。
- (2) 有用な情報源として、新聞記事をより積極的に授業に取り入れる。
- (3) 「よむのび教室」を実施し、紙面構成上の工夫を学ばせ、新聞づくりで実践させる。
- (4) 次年度への反省を各学年にフィードバックし、新年度始動前に計画を周知する。

令和6年度 NIE 実践報告(実践1年目)

鹿児島市立鴨池中学校

1 はじめに

実践1年目である今年度は、「社会の動きに興味関心をもたせるとともに、語彙力や読解力を身に付ける」を活動のテーマとして実践に取り組んできた。生徒の実態として、情報収集の手段がインターネットに偏り、新聞に触れる機会が少ないことが挙げられる。そこでまずは、新聞紙面に慣れることから始めた。また、偏った情報だけでなく、新聞を読むことで、私たちが多く取り巻く社会に関する様々な情報に興味関心を持たせることを目標として活動を行った。

2 実践事例

(1) 新聞コーナーの設置

今年度は、1年生を対象の中心として活動を行ったため、1年生が目にすることができる4階に新聞コーナーの設置を行った。毎朝、情報部の生徒が交代でその日の新しい新聞との取り換えを行う。また、話題の取り上げ方や、論点などの違いへの気づきを狙いとして、毎日2社程度の新聞を設置した。

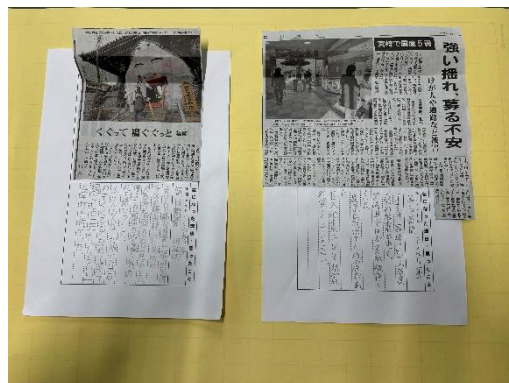


- ・ 新聞へ興味・関心をもつ第一歩となり、これまで新聞を読んだことのなかった生徒にも新聞に触れる機会を作ることができた。
- ・ 新聞の内容を話題として、話をする姿がみられた。

また、10月からは、情報部の生徒を中心に、興味のある記事を探して切り抜き、その記事が気になった理由や、感想などをまとめたものの掲示も行った。

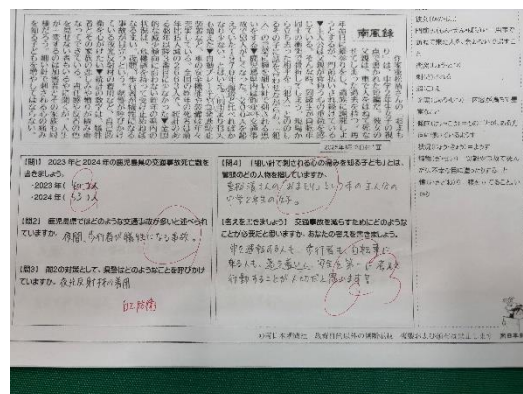


- ・ 新聞を開かずとも、記事が目に入るため、より一層、生徒たちの新聞への興味・関心をもたせることにつながった。
- ・ 生徒目線で記事を選ぶことで、多種多様な視点から記事の紹介を行うことができた。
- ・ 取り組んだ生徒たちから、「初めは難しそうなため新聞を読むことに対して抵抗感があったが、やってみると楽しかった。」との声があがった。



(2) コラムの書写・みなみ Edu「コラムを読み解く」の活用

週末課題として南日本新聞の「南風録」の書写や、南日本新聞のホームページに掲載されているワークシート「コラムを読み解く」に取り組んだ。「南風録」の書写では、語彙を豊かにし、文章の構成力を身に付けることを目的として取り組んだ。実際に、言葉の使い方や文章の表現方法が身に付いた生徒もみられた。また、「コラムを読み解く」では、読解力の向上を目的として取り組んだ。どちらも、社会問題や時事問題などに触れることができるため、語彙力や読解力を育てながら、生きた情報を取り入れたり、興味関心が広がったりするきっかけにもなった。



(3) 授業での新聞活用

① 総合的な学習の時間での活用

1年生では、11月に行われる松風祭(文化祭)で展示することを目標として、5月から郷土についての調べ学習を行った。その際、南日本新聞の回し読みを行い、まずは新聞から郷土についての話題や、それぞれのテーマにあった記事を探す活動を行った。また、調べた内容を新聞形式でまとめることを行った。その際も、見出しや写真等のレイアウトの仕方など、新聞を参考にして作成するように学習を進めた。



- ・ 郷土に関する「動物」や「工芸品」などの大まかなテーマから、新聞で目にした記事を基にして、さらに細かく視点を絞っていく姿がみられた。
- ・ 新聞のレイアウトを参考にしながら工夫して作成していた。
- ・ 日頃触れることのない記事に出会ったことで、グループ内での会話も広がっていた。
- ・ 新聞を読むことに対して「難しそう」といった意見も挙がったが、手に取って、目を通すことで新聞の面白さに気付く生徒もみられた。



また、2年生でも、修学旅行で学習した内容を新聞形式でまとめる活動を行った。さらに、各クラスで投票を行い、優秀作品を決めるといった活動も行われた。優秀作品を決めるといった目標を定めることで、より一層取り組みに熱が入り、レイアウトや見出しなどの工夫をグループで協力して考えながら行っていた。



② 各教科での記事の紹介

今年度は国語科を中心として活動を行ったが、それぞれの教科でも活用する場面があった。初めに、国語の授業の中では、1年生で戦争をテーマとした物語への導入として、原爆投下や戦争について一面となった新聞を用いた。その他、社会では、時事問題や社会問題など、取り扱う教材や授業にあった題材のものを用いたり、理科では、「地震」の授業への導入として新聞を用いたり、どの教科でもその時々合った記事を紹介していた。新聞記事を活用したことで、自分たちの日常と結び付けて考えることにつながり、授業にも新聞にも興味・関心をもたせることができた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・ 新聞コーナーの設置や授業での活用によって、新聞へ触れる機会が増え、生徒の新聞への興味・関心を高めることができた。また、新聞をより身近なものとして感じてもらうことができた。
- ・ 新聞を読むことを通して、生徒同士のコミュニケーションに繋がり、会話も広がった。
- ・ 新聞を読むことで新たな言葉に出会い、語彙が豊かになった。また、文章の構成への理解も深まった。
- ・ 偏った情報だけでなく、国際情勢の変化や政治、経済などの時事問題や社会問題について関心を示し、それらに対して自分の考えをもつことができるようになってきた。

(2) 課題

- ・ 1年生以外に向けて図書館にも新聞が設置されていたが、生徒が自ら手にする姿があまり見られなかった。図書館と連携し、新聞に関する情報発信の強化が必要。
- ・ 実践を職員間で共有するなど、全体で取り組むための情報発信があまりできていなかった。
- ・ 全教科で用いることはできなかった。教科横断的な学習のためにも、どの教科でも活用できるようにしたい。また、授業の中での定期的な活用ができるようにしたい。

4 次年度に向けて

今年度から実践を始め、手探りの状況の中で活動に取り組んできた。まだまだやれることや、改善すべきことなどが多いと感じている。課題を改善し、さらに学びが深まるような実践を行っていきたい。次年度でも、新聞への興味・関心を高め、加えて、新聞を読むことが「特別」ではなく、「日常的事業」として捉えてもらえるような環境作りに努めたい。また、次年度では「若い目」への投稿や、「よむのび教室」の活用を行うことを目標にしたい。より一層活動内容の充実を図り、新聞の効果的な活用に取り組んでいきたい。

令和6年度 NIE実践報告（実践校1年目）

鹿児島市立郡山中学校
NIE担当（国語科）國生 宏子

1 はじめに

本校は各学年2学級ずつ、生徒数約180人である。以前にもNIE実践校であったことがあるとのことだが、令和6年度、新規の実践校として国語科での取組を実施することになった。NIE実践1年目の今年度は、テーマを「新聞と私たち（新聞に触れる、新聞から学ぶ、新聞へ発信する）」と設定し、まずは生徒たちが新聞に触れる機会を多くつくることを目標に、図書館司書とも連携して取組を行った。

2 取組の計画

	国語科の授業	図書館・職員室・掲示板
1 学期	<4月> ○ 授業開き ・ NIEについての説明 <5月> ○ 弁論大会へ向けて ・ 「若い目」を活用した意見文の書き方 <6月> ○ 単元「情報化社会を生きる」での新聞の活用 （1年生＝「情報を集めよう」「情報を読み取ろう」「情報を引用しよう」、 2年生＝「メディアを比べよう」「メディアの特徴を生かして情報を集めよう」、 3年生＝「実用的な文章を読もう」「報道文を比較して読もう」）	【 図書館 】< 通年 > ・ 「新聞の読み比べをしよう」 2紙の違いについて、気づいたことを付箋に書き、ボードに貼る。 ・ 「新聞記事の紹介」 学校行事や中学生に関係する記事、関心のありそうな話題の記事を掲示板に掲示する。 ・ 閲覧用新聞提示とその保管 【 職員室 】< 通年 > ・ 閲覧用新聞の提示（当日の新聞は職員室で閲覧用とし、1日経ったものを図書館へ保管する。） ・ 学活や他教科での新聞の活用 【 掲示板 】< 通年 > ・ 「新聞記事の紹介」 学校行事や中学生に関係する記事、関心のありそうな話題の記事を掲示板に掲示する。
2 学期 ～ 3 学期	<9月> ○ 「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募 ・ 夏休みの課題として取り組み、コンクールへ応募する。 ○ 説明的文章の学習での新聞の活用 ・ 表やグラフ、写真と本文との関係を捉える学習 ・ 実際の新聞で、表やグラフ、写真がどのように掲載されているかを記事の内容と照らし合わせて考える学習	

<通年・適宜>

- 新聞記事やコラム、意見投稿欄の内容の紹介
- コラム（「南風録」）の視写
- ワークシート（「みなみさんのNIE」ワークシート）を活用した読み取りの学習
- 投稿欄（「ひろば・若い目」）への応募

3 取組の実際

(1) 図書館

① 新聞閲覧・保管コーナーの設置と管理

図書館内での新聞の閲覧コーナー、保管コーナーだけでなく、「中学生新聞」をいつでも見られるように各学年の廊下に書見台を設置し、週間ごとに新聞をローテーションして閲覧できるようにしている。

② 「読み比べ」ボードの設置

＝2紙の違いについて、気づいたことを付箋に書き、ボードに貼る。

<生徒の気づきより>

- ・ テレビ欄の放送局の並び順が違う
- ・ 使っているフォントが違う
- ・ 意見の投稿欄に載せてある意見の数が違う
- ・ 同じ記事でも、タイトルの付け方が違う
- ・ 同じ内容の記事でも、使われている写真が違う
- ・ 一面の記事でも、一つの記事に使っている面積が違う
- ・ 全国や九州の記事が多い新聞と、鹿児島に関する記事が多い新聞がある

③ 入試と関連させた新聞コーナーの設置

3年生の教室の廊下に、入試問題の例と記事の掲載された新聞を掲示した新聞コーナーを設置した。



(2) 国語科

① 記事やコラム欄などの紹介

国語の授業の始めに、その日の新聞記事や各紙のコラムの紹介を行った。1紙だけでなく、2紙紹介するなど、多くの新聞記事やコラムに触れる機会を持てるようにした。紹介する記事は、生徒に身近なものや興味がありそうなもの（鹿児島県に関するもの、スポーツやエンターテインメント、SNSに関するもの）だけでなく、人権、環境、国際社会など、日頃はあまり生徒が触れることが少ないと考えられる話題をあえて

選び、自分たちの生活との関わりについて気づかせる機会とした。

また、授業で紹介した記事やコラムは掲示板に掲示した。



② 新聞コーナーの設置

2年生の教室の廊下に新聞コーナーを設置し、2紙を1か月分ずつ閲覧できるようにした。

③ 弁論大会へ向けての授業における活用

本校では学校行事として、毎年6月末に学校弁論大会を行っている。各学級での弁論大会を経た代表者6人が、全校生徒の前で弁論発表を行うものである。教科書に掲載されている学習材を用いて意見文の書き方

（題材の選び方、文章の構成、表現の仕方（＝言葉の使い方）、論じ方）について学習する際に、実際に掲載されている「若い目」を題材例・モデル文として活用している。

④ 教科書教材学習での活用

教科書の単元「情報化社会を生きる」（1年生＝「情報を集めよう」「情報を読み取ろう」「情報を引用しよう」、2年生＝「メディアを比べよう」「メディアの特徴を生かして情報を集めよう」、3年生＝「実用的な文章を読もう」「報道文を比較して読もう」）の学習において、さまざまなメディアの特徴について観点別に比較したり、記事の書き方の違いを実際の紙面で確かめたりした。

また、説明的文章や資料活用の学習時において、「みなみさんちのNIEワークシート」を活用し、記事中での数値データの引用のしかたや表・グラフからの情報の読み取り方について学習した。

⑤ コラム「南風録」の視写

授業の中において、各学年、南風録の視写を行った。「初見の文章を決められた時間内に正確に速く書き写」す活動あと、何が書かれているか、再度個人でじっくりコラムを読み、感じたことや考えたことを共有する活動を行った。定期的な実施は難しかったが、回数を重ねることで、視写の正確さとスピードが上がった生徒が見られた。

(3) その他

○ 総合的な学習において

担当している学年では、総合的な学習において、自分の学び（主なテーマは1年次が「郷土・鹿児島」について、2年次が「平和」について）を各自が新聞の形式にまとめ、文化祭で展示発表を行った。文化祭後は学年の教室の廊下壁面に掲示している。



4 次年度へ向けて

(1) 成果

学習後の生徒の感想として、「図書館に新聞が置いてあるのは知っていたが、これまではテレビ欄くらいしかあまり見ることはなかったけど、他のところも読んでみようと思った」、「新聞って意外と面白いと思った」といった言葉が見られたように、今年度のテーマの一つである「新聞に触れる」「新聞から学ぶ」については、生徒の、新聞に対する関心は高まった部分があると感じられる。

(2) 課題及び次年度へ向けて

今年度のテーマを「新聞と私たち（新聞に触れる、新聞から学ぶ、新聞へ発信する）」と設定して取組を実践したが、「新聞へ発信する」の部分への取組ができなかった。NIE実践2年目となる次年度は、「新聞へ発信する」ことを生徒にも意識させ、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力の育成と併せて行いたい。

また、生徒のものの見方、考え方をさらに広げるために、「新聞に触れ」たり「新聞から学」んだりする機会をより多くもてるよう、「南風録」や「若い目」の活用の仕方を工夫したい。

令和6年度 NIE 実践報告

霧島市立牧之原中学校

1 はじめに

本校は、令和6年度よりNIE実践校として活動を始めた。1年目となる今年は「新聞活用を通して思考力・判断力・表現力を高める」をテーマとし、取組を行った。

2 実践内容

(1) 新聞コーナーの設置

生徒玄関付近に新聞コーナーを設置した。近年、家庭で新聞を購読している家庭も減少しており、まずは新聞に慣れ親しむ機会を増やすことを目的とした。生徒の新聞への興味や関心が高まるよう、毎朝の新聞掲示を生徒会の係活動として位置づけた。



(2) 新聞記事の掲示

地域に関する記事や、生徒の身近な話題に関する記事を取り上げ、生徒玄関付近の掲示板上に掲示を行っている。

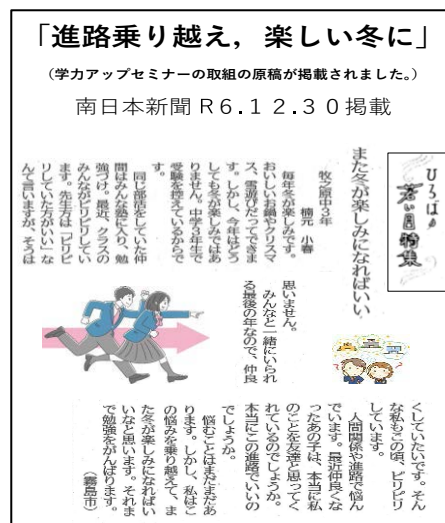


(3) 「新聞活用ワークシート」等の活用

ア 年15回、全校一斉に行っている25分間の学力アップセミナーの時間に、本年度は『みなみEdu』に掲載されている新聞活用ワークシートを教材として利用した。ワークシートに取り組みながら、グループで記事を音読したり、要点をまとめたりする活動を毎回行っている。生徒にとっては、自分の興味関心以外の記事を読む機会にもなり、新たな知識や学びを得る時間にもなっている。



イ 学力アップセミナーの時間を使い、南日本新聞ひろば「若い目」に全学年投稿した。投稿する前に、373に掲載されている「若い目」のこつを読み合わせた。題材を前日までに考えたり、情報集めをさせたりした。全員がそれぞれ、興味あること、時事のこと、体験したことなど自分の考えを400字に表現した。結果、南日本新聞に2人の生徒が掲載された。日頃の生活を見つめ直したり、自己を表現したりできる時間となった。



(4) 各教科・領域等での実践

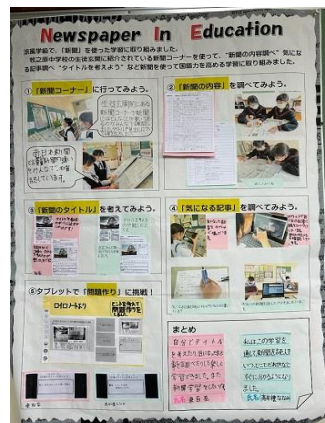
ア 保健指導（養護教諭）

- 生徒集会での生徒会保健部による「歯と口の健康について」発表の際、南日本新聞の掲載されていた「あいうべ体操の効果」の記事を参考にした。



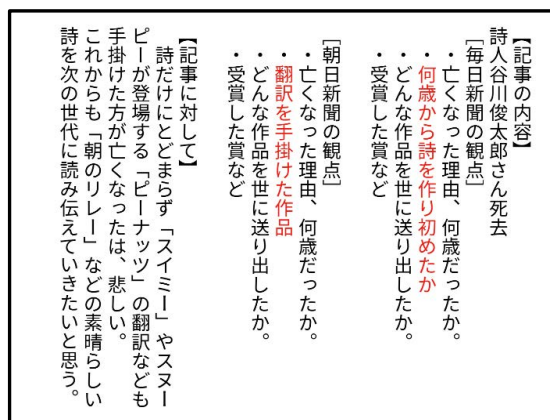
イ 特別支援学級

- ・ 授業で「すくーる 373 郎」を活用した。新聞から気になる文章を見つけ保存するなど、興味深く学ぶ様子が伺えた。クイズへも挑戦し、学級で盛り上がった。
また、新聞記事の構成も学び、地理の授業では自分の好きな地方を選び、新聞形式でまとめる学習を行った。



ウ 国語科

- ・ 『複数の情報を関連づけて考えをまとめる』の単元で、同一の内容を取り扱っている2社の新聞記事を読み、「記事内容」、「それぞれの新聞社の観点」、「自分の考え」をまとめた。それぞれの新聞社の観点を見いだそうと複数の記事を見比べ、読み取った内容や、記事を読んで考えたことなどを自分の言葉で表現しようとする姿が見られた。



(実際の生徒のまとめ)

エ 音楽科

- ・ 夏休みの課題として『音楽新聞』の作成を行った。音楽に関することで、自分の興味 や関心のあることについて調べ、新聞形式でまとめた。興味を引くような見出しを工夫したり、見やすいように写真やイラストを用いてレイアウトを考えたりするなど、楽しみながら課題に取り組んでいた。



オ 保健体育科

- ・ 2年生の保健分野『交通事故の現状と原因』『交通事故の防止』の項目で新聞記事を活用した。記事を読み、作成したワークシートに取り組みながら、グループ内で活発に意見交換する様子が見られた。



2年生 南條 2024年12月11日 400字 番号 () 氏名 ()

【問1】 自転車のながら運転の罰則が厳しくなったのは、何月何日からですか？

【問2】 2024年6月1日施行された改正道路交通法により、罰則が厳しくなりましたが、それは何歳以上の場合ですか？また、罰金は何円以上から課せられますか？

2024年6月1日 罰金

【問3】 事故に巻き込まれるような、ながら運転も危険で、「ながら運転」の対象となりますが、具体的にどんなことをしながら運転していると危険ですか？

【問4】 自転車のながら運転が危険な理由として、一番多いのは何ですか？

【問5】 この記事を読んで、今後の生活で気を付けたいことを書きましょう。

カ 外国語科

- ・ 3年生『Haiku in English』の単元で、新聞の写真記事を活用した。自分が気になる記事の一つを選び、記事に書かれていた内容や、その記事を読んで自分が感じたことなどを自由に英語俳句(英語詩)にした。記事を選ぶために熱心に新聞を読む様子や、記事を選ぶ過程で自然と2社の新聞を読み比べている様子も見られた。



(生徒作品)

キ 学年部

- ・ 3年部では、活字を読むことや、漢字を書くことを家庭学習で取り入れたいという思いから、南風録視写を週末課題で取り組んだ。取り組み始めた頃は、題名を付けることや感想を指定された行いっぱい書くことに苦労している様子が見られたが、少しずつ自分の意見をまとめる力もついてきているように感じられる。

3 終わりに

今年度は、新聞コーナーの設置や新聞記事の掲示など、新聞に慣れ親しむところからの始まりとなった。また、全校の取り組みである学力アップセミナーに、『新聞活用ワークシート』を用いることで、全職員で共通した取り組みを行うこともできた。生徒たちにとっては、ワークシートに取り上げられている様々な分野の知識に触れ、興味をもつ機会となった。

テーマとして掲げている、新聞活用を通しての思考力・判断力・表現力の向上に向けて、次年度も新聞活用の方法を模索していきたい。

1 目標

SNS 等の発達により手軽に情報が発信され、受信できる今、改めて情報の収集、分析及び文章化する技術の結晶である新聞に触れることで、リテラシー能力を育てるとともに、時事に目を向けて社会と自己との関連を見いだせる。また、新聞の情報を広げさせるとともに、課題の発見・解決といった探究能力を育成する。さらには、クラスでの発表を行わせることにより、情報を客観的かつ広く伝える技術を育成する。

2 実践内容

(1) 1 学年での学校設定科目「ロジックプログラム I」における活用

本校は第IV期SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定校である。自らの設定した研究課題の解決に向けて、探究活動に力を入れている。特に普通科では文理の枠を超えた多様な分野で活動を行っている。現実の世界でどのような事象が起き、解決すべき問題があるのか。自らの研究課題の設定にあたって、このような視点は非常に重要である。その視点を得るためにも新聞を読む活動は大変有意義である。今年度は本校の普通科1年生を対象に「新聞ポスターコンテスト」と称して、以下のような活動を行った。テーマを設定し、検証方法を考える一連の流れを経験させ、自らの研究課題を設定する力を培うことを目的とした。

ア) 各教室（1年1組～4組）に新聞記事を配布する。生徒は、自分の教室にある新聞に目を通し、気になる記事を選ぶ。

- ・朝日・毎日・読売・日経・南日本の五紙を利用し、各クラスに置かれる新聞に偏りが出ないようにした。（例：6月10日付けは朝日・読売・日経の各紙、6月11日付けは毎日・南日本の各紙を1組には置く。）
- ・科学的トピックを扱う記事が多く選ばれるのではないかと予想したが、社会的な記事を選ぶ生徒が多かった。普段家で新聞を読む習慣がないためか、避難所での暮らしや熱中症の記事など身近なトピックでさえも新聞で読むと新鮮に感じた生徒も多かったようだ。

イ) 気になった記事からテーマ案を作成し、インターネット上で提出する。（Google form を用いる。）新聞は教室で保存し、期間中はいつでも提出を受け付けることとする。

- ・テーマ案には、検証方法もあわせて提出させた。テーマについての仮説を作り、検証方法を考える経験はほとんど初めての生徒が多かった。発展性のないテーマを設定したり、「インターネットで調べる」など説得力の伴わない検証方法が多く提出されたり、研究活動の最初の難関である課題設定に悪戦苦闘している様子であった。

【生徒提出例】

生徒 A 記事：「サメ被害相次ぐ」（『南日本新聞 6月15日付 朝刊』）

テーマ案：地球温暖化による海の生き物の生息地域変化

検証方法：漁業をしている人にインタビュー，インターネットの活用

生徒 B 記事：「サンマにプラスチック？10代活動」（『朝日新聞 6月20日付 朝刊』）

テーマ案：プラスチックを減らそう

検証方法：地球にいい製品にはどのようなものがあるか調べる

ウ）教員が班を作成する。班のメンバーがそれまでに提出したテーマ案から、各班のテーマ案を一つ選ぶ。

- ・班内で各自が提出したテーマ案を共有し、研究として一番発展性がありそうなものを選択させた。
- ・選んだテーマ案について、以下の内容に沿ってスライドを作成し、発表する。

- ① テーマ案
- ② もととなった新聞記事の紹介
- ③ テーマの魅力
- ④ 研究の見通し・検証方法

エ）各クラスの最優秀班と、最優秀テーマ案を作成した個人とを学年の前で表彰する。

- ・審査基準をもとに、スライド発表の最優秀班をクラスごとに決定し、またイ）の活動で提出されたテーマ案を担当職員で採点し、最優秀テーマ作成者を表彰した。

【表彰された班のスライド】



仮説と検証方法

仮説：虫が嫌う成分の含まれた植物によって防げるのではないかな。

検証方法：1. いろいろな植物を採取し、その植物から有効成分を抽出する。(植物をお湯で煎じたり、お酒や油、酢などを溶剤にして漬け込む)
2. それらの成分の中で虫が嫌う成分がないか、実際に害虫を使ってその反応を調べる。また、その植物自体に害虫を寄せさせる性能が無いかも調べる。

【表彰されたテーマ案】

最優秀テーマ①

錦江湾生に和食文化を広めるには どうしたらいいのか

検証方法

- ・現時点で関心がある人をアンケートで調べる。
- ・次に地域などのおすすめ和食店などをポスターとかにして掲示しまだ関心を持っていない人に見てもらう。
- ・またアンケートをとり関心をもてた人数の増加を調べる。

①②③④⑤⑥

最優秀テーマ②

新聞や本を読むことで 記述力や読解力が向上するのか

検証方法

- ・新聞や本を読んでいるグループと読んでいないグループで国語のテスト問題を受けさせ、正答率を比較する

オ) 上記の活動終了後、「課題設定の際のポイント」として今回の活動を通じて見つかった生徒たちの課題、課題設定時に注意するポイントなどを、全体場で共有した。

(2)「読解力トレーニング NIE の日」の実施

ア 週一回、朝のショートホームルーム前の15分間で実施した。

イ 「Wednesday NIE」として、プリントを作成した。

ウ 全校生徒に新聞記事を与えて読ませ、気になった記述やキーワードに線を引かせた。

エ ワークシートに取り組ませた。

(2) の成果と課題

ア 本年度は昨年度とは変えて、SSHの課題研究につながるような記事を主に取り扱った。

イ 扱う内容が決まっているため、準備をしやすかった。

ウ 教師が教室につかずに自学自習が主なため、生徒の取り組み方に違いが見られ

た。

エ 新聞には課題研究の材料があふれていることが改めて分かった。

オ プリントでの配布は、時代に合わなくなっているため、デジタルでの配布を検討する。

カ デジタルについて、学校での活用と著作権の問題を意識して、トラブルにならないようにする。

キ デジタルの良いところは、「拡大・縮小ができる」「カラーである」「画像で残せる」「管理と保存が効率的」であるため、学校において活路を見いだしたい。

(3) 小論文指導等の受験指導への活用

ア 小論文を書くための準備に活用する。

イ 「日本の今」が記事になっているため、最新の情報を得られる。

ウ 新聞を読むことで、事実の把握だけでなく、課題や解決策などを読み取ることができる。

エ 生成 AI の積極的な活用により、諸課題に取り組んでいく。

まとめ

新聞は読者とともに作られている。新聞と向き合っていると、そのように思うことがある。毎朝、紙面をめくるたびに新しい話題や課題と向き合う。また、多くの人が新聞の紙面作りに関わっていることも容易に想像される。新聞に代わり、ネットニュースに触れる場面も多くなってきた。各家庭で新聞を読む機会も少なくなっているようにも思う。ただ、「紙」でニュースに触れることの重要性、必要性は高いはずである。「変わるものと変わらないもの」を決めようとしなくてもいいのかもしれない。紙のいいところ、デジタルのいいところをうまく取り入れながら、教育に活かせたらすごくいいと思う。限定的にでも新聞紙面を生徒に配信できたりすると、より一層世の中の出来事を考える機会が増えるのではないだろうか。学校全体で新聞に触れる機会を与えたださったことに感謝いたします。

令和 6 年度 NIE 実践報告

鹿児島県立大島高等学校

1 はじめに

本校は、令和 6 年度に創立 123 周年を迎えた伝統校で、奄美群島内を始め、県本土や東京など、全国から集まった生徒達が在学している。大多数の生徒が、大学への進学を目標としており、学業や部活動に勤しむ傍ら、探究成果の発表や、ビブリオバトルなどの各種コンクールに積極的に参加している。一方で、日頃の授業や総合的な探究の時間の活動において、生徒が情報を収集する手段は、図書館の他はスマートフォンやタブレットに偏りがちであり、NIE 実践校 1 年目の昨年度は、まず新聞紙面に慣れるというところからスタートした。2 年目の今年度は、授業での活用を増やし、総合的な探究や LHR での活用を通じて、生徒が新聞を情報収集ツールのひとつとして手に取るように習慣づけたい。

2 今年度の実践内容

(1) 「朝の一読」での活用と、その後の授業実践

今年度は、全学年の教室掲示用として「朝の一読」を配布した。3 年生の受験指導が本格化するまでの期間であったが、朝の SHR で担当教員が紹介し、各生徒にどう考えるかという問を投げかけるなど、新聞から社会を見るきっかけ作りに役立ててもらった。

採用紙面は、学校で購読している『南海日日新聞』『奄美新聞』『南日本新聞』『朝日新聞』『読売新聞』『毎日新聞』に加えて、『日本経済新聞』『AsahiWeekly』『朝日新聞デジタル』『日本経済新聞デジタル』であり、記事を切り抜く形で生徒に提示した。「朝の一読」で取り上げた記事については、主として、地歴公民科の授業や考査で使用したり、総合的な探究の時間に、配布した新聞記事を契機に関連記事を収集させたり、小論文指導の際に改めて読み返しをさせるなどの活用を行った。

また、公民科の授業で資料として活用したり、考査問題のリード文としても新聞を使用している。例えば、2020 年センター試験「現代社会」で出題された、大学の入学者数を、関係学科の区分や性別ごとに示した図をもとに、「図から、大学の関係学科ごとの入学者数に見られる性別の傾向を読み取り、性別による偏重を改善しようとするときにどのような方法が考えられるか、最近の新聞やニュースの報道を踏まえて現実的かつ具体的に答えよ。200 字以上 300 字以内で回答すること。」との問を作成し、日頃の新聞活用から得られた「知識・技能」とともに「思考力・判断力・表現力」を評価することを試みた。殆どの生徒が、正しく読み取って解答を記入することができたうえで、授業で紹介してあった新聞から得られた最新の情報を記述できた生徒もあり、活字から読み取る力を身につけてくれていると考える。

〔2年公共試験問題での各单元におけるリード文としての活用の事例〕

青年期：「天声人語」カンニングとひみつ道具 2024年5月17日『朝日新聞』

古代思想：「春秋」アンパンマンの物語 2013年10月16日『日本経済新聞』

歴史認識と議論：

折々のことば：2962 鷲田清一 2024年1月8日『朝日新聞』

ミセス「コロンブス」問題、「タブー化せず議論を」 2024年6月15日『日本経済新聞』

近代思想：普遍的価値、外交も国内も 市原麻衣子さん（国際政治学者）

『朝日新聞』（2023年2月1日朝刊11頁）

情報社会：豪首相、子どものSNS禁止法案 FBやインスタ、年内に提出方針

2024年9月11日『朝日新聞』朝刊

現代思想：（明日へのLesson）第3週：クエスチョン「親ガチャ」で生じる格差を考える 2023年9月21日『朝日新聞』

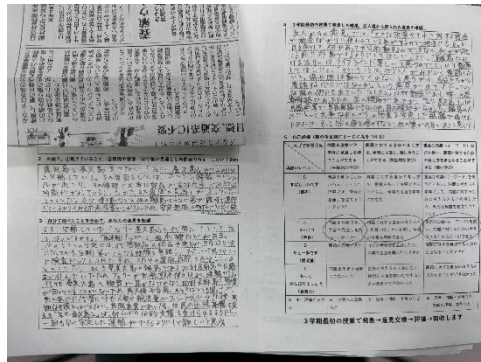
（2）長期休暇中の課題としての活用

夏季・冬季の長期休暇中に生徒に以下の課題を与えて取り組んでもらった。新学期最初の授業で、互いの課題についてプレゼンしてもらい、議論することで、社会課題への認識の深化と新たな課題へのつながりを見いだしてもらうことがねらいである。

右写真は、班別にプレゼンと質疑応答をしている様子であり、資料は、生徒の成果物である。

長期休暇明けということもあり、和気藹々と楽しく取り組んでくれていた。自分たちで、ひとつの新聞記事から、社会への視野を広げて行く様子が頼もしく感じられた。

（資料）



3 まとめ

今年度も、夏には全学年で「新聞コンクール」に応募するなど、年間を通じて授業実践などに新聞を活用することができた。また、受験を控えた3年生の教室には、地元紙が配布され、地元の事情も含めて社会への関心を喚起することができた。今年度の反省を踏まえて、次年度からは、より教科横断的な活用を試みていきたい。

令和6年度 NIE実践報告（実践4年目）

鹿児島県立鹿児島聾学校

1 はじめに

本校は鹿児島市下伊敷に所在する、県内唯一の聴覚障害教育を専門とする特別支援学校である。今年度は幼稚部10人、小学部13人、中学部10人、高等部3人の計36人が在籍している。また、0歳児からを対象とする乳幼児教育相談やきこえの相談、通級指導教室など聴覚障害教育に関するセンター的機能を担っており、遠隔地に自宅のある幼児児童生徒のために寄宿舎も備えている。

昨年度までの3年間は学校全体のテーマ研修として、新聞やICTを活用しながら、言語能力や思考力を高めることをねらいとする授業実践等に取り組んできた。多様な実践がなされた3年間の研究によって、幼児児童生徒の読解力や語彙力・表現力の向上、知識を広めるために新聞を活用することの有効性が各学部等で確認できた。学部等によっては、学習内容や寄宿舎生活と実社会のつながりの把握、社会問題などに当事者意識をもち社会参画の視点を養う取組へも活用できた。これらは幼児児童生徒の語彙力等の実態に応じて、新聞教材を個別最適化してきたことで可能になったと考えている。

実践指定期間最後となる4年目の今年度は、学校全体で取り組むテーマ研修としては扱わないが、これまでの実践で得られた知見を継承していくことと、NIE実践指定校でなくなった後も、無理なく自然と新聞に親しみ・活用する機会をいかに設けるかという視点で実践に取り組み、年度後半には実践状況の検証や実践内容の共有を行う評価場面を設けることで継承の在り方を探った。

また、今年度は聴覚相談センターの通級指導教室においても新聞活用に取り組んだ。

2 実践主題

聾学校における持続可能なNIE実践

～知見の継承と新聞に親しみ・活用し続けるための在り方を探る取組～

3 本年度の実践内容

（1） 学校全体における取組

- ア 学校玄関へ新聞閲覧コーナーの設置
- イ 閲覧終了後の新聞5紙を各学部・寄宿舎へ分配し各学部等の裁量で活用
- ウ 学校全体の児童生徒会活動における新聞活用

（2） 新聞を用いた各学部・寄宿舎の取組

- ア 学部等ごとに全体で取り組む学習活動の実践
幼稚部「親子で新聞を読もう」、小学部「児童会活動を中心としたNIE実践」、
中学部「朝活動におけるNIE実践」、高等部「自己紹介新聞の作成」、
寄宿舎「新聞記事の切り抜き掲示」、通級指導教室「新聞読解」等
- イ 各学部の教科等における新聞を活用した学習活動の実践

（3） 実践の評価

- ア 教科等で行う学習活動の取組については、教科等部会におけるテーマの一つとし、部会の教科等担当者同士で実践内容や知見などを共有
- イ 教科等で行う学習活動以外の取組については、年度後半に各学部等の研修係やNIE担当者を中心に分析と検証
本報告では実践の紹介・報告ごとに分析と検証した持続可能性の評価も記載する。

4 実践の実際

（1） 学校全体における取組のうち「児童生徒会活動における新聞活用」

ア 活動内容

学期ごとに各学部で分担（1学期高等部、2学期中学部、3学期小学部）し、新聞に親しみ楽しさに触れるための児童生徒会切り抜き壁新聞作りに取り組んだ。

1学期担当の高等部の例



1学期は幼稚部生から高等部生まで興味をもてるような内容は何か考え、オリンピック・パラリンピックを主に、クイズや間違い探しを取り入れた。コメント付きで自分が興味をもった記事の紹介も行った。

2学期担当の中学部は、それぞれが興味をもった記事の紹介と、SDGsに関する記事をまとめた。壁新聞は全学部生が日常的に通る場所や文化祭で掲示した。

イ 評価

積極的に新聞を読み、興味ある新聞記事選びを行っており、これまで様々な学習場面で新聞を読む活動に取り組んできた成果を感じた。また、幅広い年代の読者を想定した内容やレイアウトにしようとする工夫が見られた。

通年でなく学期ごとに各学部で分担することで、準備・作成する職員・児童生徒の負担を減らすことができ取り組みやすくなった。次年度以降も学校全体の活動として継続して取り組むことが可能であると考ええる。

(2) 新聞を用いた各学部・寄宿舎の取組

ア 幼稚部の取組（幼稚部全体） 「親子で新聞を読もう」（前年度から継続）

学習の流れ ※ 幼稚部は任意で保護者が付き添って授業が行われている

- ・ 幼児が興味をもてそうな新聞記事（動植物などの生き物、ニュースなどで話題の記事）を選び廊下に掲示した（掲示期間は2週間程度）。
- ・ 子供と保護者が新聞記事を見て話した中で、子供の気付きや発した言葉（非言語的な身振り等も含む。）から話題を深めたり、表現の幅を広げたりする。

取り組みの様子 平川動物園のライオンのジョンくんとトランプ大統領の記事



右、トランプ大統領の写真を指してテレビで見たことを教えてくれる子供、知っている情報を伝える子供が見られた。

左・中、4月に親子遠足で平川動物園を訪れていた子供たち・・・。「あっ！（これ、見たー！）」と遠足の思い出を嬉しそうに話していたが、ライオンのジョンくんが亡くなったことを伝えようと、神妙な表情になり、涙ぐむ子供もいた。記事を毎日目にしていくと徐々にジョンくんへの思いを表現した手紙を付箋に書く子供が増えていった。

評価

文字情報に意識的に触れたり、話題を深め表現の幅を広げたりするのに新聞記事の掲示は適している。現在の取り組み方なら準備等に大きな負担はないため、次年度以降も継続して取り組むことが可能であると考ええる。

イ 小学部の取組（小学部全体） 「児童会活動を中心としたNIE実践」

学習の概要

高学年のポイント〈読む・調べる〉

- ・ 新聞記事の中から興味のある記事、他の児童に伝えたい内容の記事を探して読み、記事やニュースの内容を理解する。
- ・ プレゼンテーションソフトを使って記事の内容を基にしたクイズを作成する。

低・中学年のポイント〈見る・聴く〉〈伝える〉

- ・ 児童集会で担当の高学年が作成した「新聞ニュースクイズ」に取り組む。

- ・ 児童集会で行ったニュースクイズを廊下等に掲示して話題にする。

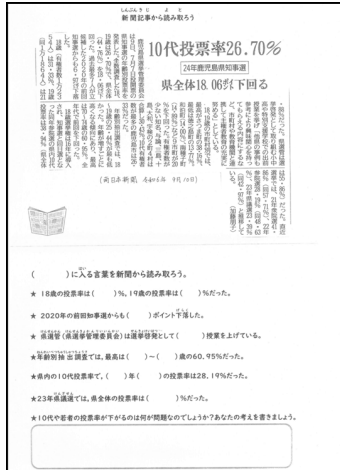


左・中、新聞を
読んで新聞ク
イズ作り
右、児童集会の
様子

評価

発達段階や語彙力等に応じて読解や調べ学習などの課題を設定できた。今年度のモデルを活用して準備の削減など工夫しながら今後も継続して取り組みたい。

ウ 中学部の取組（中学部全体） 「朝活動時間におけるNIE実践」



週1回朝活動（登校から始業までの時間）で、①新聞の構成や読み方を知る、②興味ある記事を読み自身の考えをまとめる、③共通する記事（10代の低投票率）を読み自身の考えをまとめる、④10代の投票率を上げるために考えたことをグループでまとめる（話し合い）、といった学習活動を段階的に行った。

③の活動のワークシート
最後の「10代や若者の投票率が下がることとの問題点」について生徒達は、
・「もっと若者が投票に行かなくなる」
・「若者の意見が届きにくくなる」等を挙げた。

④のグループ（ABCの3グループ）まとめ

- A ・ 中央駅など若者が集まりやすい場所に投票所設置。
・ 投票したらクーポンがもらえるようにする。など
- B ・ SNS等のメディアで選挙があることを知らせる。
・ 投票したらくじがもらえる。など
- C ・ 若い人が集まる・見る場所を考察
(コンビニ、人気のYouTube、SNSなどが挙げた。)
新聞記事を基に自身の考えを発表することが自信に繋がる様子や、グループ活動で活発に意見発信する姿が見られた。

評価

週1回なので無理なく準備をすることができ、これまでの本校・他校の実践例が参考になった。次年度以降も継続して取り組むことが可能であると考え。

エ 高等部の取組（高等部全体） 「自己紹介新聞の作成」



高等部ではこれまで朝自習時間に週1回、新聞記事を基に生徒の読解力や語彙力を考慮して作成した読解課題に取り組んできた。今年度の読解課題は国語の時間に取り組むこととし、週1回のNIE朝自習は進路指導を絡めた「自己紹介新聞の作成」を行うこととした。これは生徒の重複障害が重度化する中で、従前の取り組みだけでは自己理解と進路決定に難しさが生じてきたことと、豊学校の九州大会等の例年に行ないの行事に対応するために、改めて高等部の学習活動全体を進路実現への取り組みと捉え、各学習活動や行事を進路指導と深くリンクさせることを目指したためである。そのツールとして新聞形式を用いた。

長所・短所からコミュニケーション方法や趣味等まで自己を振り返って文章化し、他者への伝わりやすさを考えながら新聞形式にまとめた。文化祭の進路活動を紹介する劇の中でも紹介し、高等部の進路活動をアピールすることにも繋がった。

評価

新聞を基にした課題の取り組みは定着しており、新聞形式で自己理解を深めることの有効性も確認できた。今後も新聞活用に取り組むことが可能であると考え。

オ 寄宿舎の取組（寄宿舎全体） 「新聞記事の切り抜き掲示」

新聞やニュースへの関心を高め生活との関連を意識することや、知識・語彙の拡充を目指し、様々な種類の記事の切り抜きを寄宿舎廊下等に地図と一緒に掲示した。



※ 本校寄宿舎には幼稚園
1年生(3歳)～高等部
2年生(17歳)まで在籍
2学期末までに約40
の記事を掲示した。

評価

立ち止まって新聞記事に目を向け、分からない言葉は近くの職員に尋ねたり、地図で出来事場所を確認したりする姿が見られた。無理なく今後も継続できる。

力 通級指導教室における指導課題としての「新聞読解」

地域の学校に通いながら定期的に来校する児童生徒へ指導を行う通級指導教室では、新聞記事読解のワークシートを用いた。教科書では扱わない身近な話題や語句を調べたり、表やグラフを読解したりすることができるため、語彙アセスメントに有効であると共に、継続による言語能力の伸長が期待できる。今後も取り組みたい。

(3) 各学部の教科等における新聞活用の取組

ア 国語科(高等部)の例



主に南日本新聞のひろば欄に投稿された文章を基に問題を作成し、読解や関連する内容を表現することに取り組んだ。これまでの朝自習課題とは作成担当者が異なるがノウハウが生かされている。負担感無く準備でき、実態に応じて個別最適化しやすい。今後も取り組むことが可能である。

イ 教科等部会における情報交換・共有(2学期末)

教科等名(保健体育)	記録者(大河)	保健体育の例
1 今年度、各教科等での実践について		
(1) 対象・時期・内容		
中3 保健 5月～7月		
新聞から自分の意見をもとめて、		
記事の内容は健康に関すること。		
(2) 評価(幼児児童生徒の資育や準備に関する課題等)		
新聞には、記事、写真、図表など、様々な情報が含まれている。これを活用して、自分の意見をもとめて、記事の内容は健康に関すること。		
評価としては、新聞記事、図表、写真など、様々な情報を活用して、自分の意見をもとめて、記事の内容は健康に関すること。		
2 今年度の実践が参考になった点		
メディアの活用が参考になった。		
3 今年度の取り組みを参考に次年度の実践や部会メンバーが取り入れることができそうなこと(その際の課題も含めて)		
評価として、新聞は、図表、写真など、様々な情報が含まれている。これを活用して、自分の意見をもとめて、記事の内容は健康に関すること。		
4 実践が無かった教科等において、その理由		

教科等名(算数・数学)	記録者(小田)	算数・数学の例
1 今年度、各教科等での実践について		
(1) 対象・時期・内容		
・ 中学部3年、12月、単元名「標本調査」新聞「世論調査」を利用した。		
・ 高等部2・3年、4月、単元名「データの活用」、統計グラフコンクール作品制作の導入で新聞に掲載されているグラフを数値提示した。		
(2) 評価(幼児児童生徒の資育や準備に関する課題等)		
・ 全数調査と標本調査の理解につながった。		
・ 新聞にグラフが度々使われていることに気づき、グラフを身近に感じるきっかけとなった。		
2 今年度の実践が参考になった点		
3 今年度の取り組みを参考に次年度の実践や部会メンバーが取り入れることができそうなこと(その際の課題も含めて)		
・ データの活用(グラフやデータ収集)関係の単元では、新聞に掲載されているグラフ等を積極的に活用することで、数学を身近に感じたり、グラフ等の読み取りを通して思考を深めたりできる機会になると思った。		

各教科等部会時に上の様式を基に、対象、実践内容、対象者の変容、準備・内容に関する課題、参考になった点など NIE の取り組みについて情報交換や共有を行った。多くの教科で評価や引き継ぎまで考慮した取り組みが見られた。

5 総括

年度当初から持続可能性を探ることを前面に出しながら学校全体に取組を促してきたことで、本校の幼児児童生徒・職員が新聞に親しみ・活用し続けるための方向付けができたものと考えられる。4年間の NIE 実践機会をいただいたことに深く感謝いたします。

鹿児島県新聞活用教育（N I E）推進協議会会則

1995（平成7）年 4月実施
1998（平成10）年 5月改定
2004（平成16）年 5月改定
2016（平成28）年 5月改定

- 第1条（名称）** 本会は鹿児島県新聞活用教育（N I E＝**Newspaper In Education** 教育に新聞を）推進協議会と称する。（略称・鹿児島県N I E推進協議会）
- 第2条（目的）** 本会は教育界と新聞界が協力、新聞を生きた教材として活用するための研究と実践を通して、教育内容を豊かにするとともに情報化社会における情報活用能力を高め、幅広い人間形成に役立たせることを目的とする。
- 第3条（事業）** 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- ①N I E実践研究会委嘱校、委嘱者の選定
 - ②N I E実践研究委嘱校、委嘱者への研究補助
 - ③N I Eに関する研究会等の開催および研究成果の紹介や普及
 - ④その他、本会の目的達成上、必要と認めた事項
- 第4条第1項（組織）** 本会は次に掲げる委員で構成する。
- ①鹿児島県内の学識経験者
 - ②鹿児島県の教育委員会関係者
 - ③市町村教委、校長会、私学団体
 - ④実践校代表
 - ⑤在鹿の日本新聞協会加盟者代表（朝日、毎日、読売、西日本、日経、南日本、南海日日、共同通信、時事通信）
- 第2項（任期）** 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 第6条（役員）** ①本会には会長1名、副会長3名、監事2名を置く。
- ②会長は協議会を代表し、会務を統括する。
 - ③副会長は会長を補佐し、会長が欠けたときはその職務を代行する。
 - ④監事は会計監査を行う。
- 第7条（運営）第1項** 本会は次期計画その他運営に関する重要な事項を決定するため、毎年1回定期総会を開くほか、事業状況報告などのための臨時会を開催する。
- 第2項** 総会は会長が招集し、その議長となる。
- 第8条（経費）** 本会の運営に関する経費は、参加する新聞・通信社の拠出金および個人、団体等からの補助金その他の収入をあてる。
- 第9条（事務局）** 本会事務局は南日本新聞社編集局ひろば室に置く。
- 第10条（事業年度）** 本会の事業年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
- 第11条（補則）** この会則に定めるもののほか本会に必要な事項は別に定める。

※付則 この会則は2016（平成28）年4月から実施する。